

中学入試問題資料

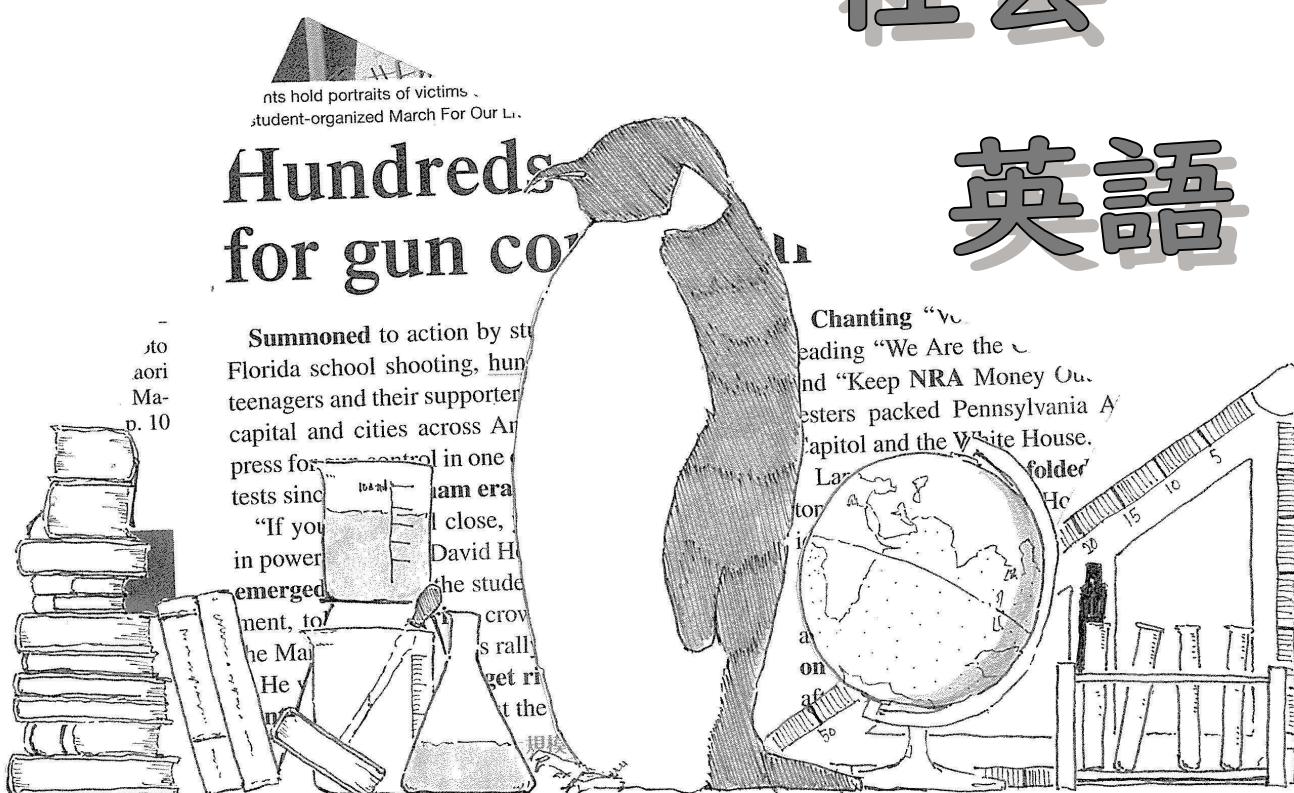
—2018年度入試 出題のポイント—

国語

算数

理科

社会



聖光学院中学校

中学入試は親子の二人三脚です。小学生の低学年からの塾通いも珍しくない時代では、保護者の方の手助けがどうしても必要になります。塾の送り迎えから始まり、お弁当作り、模擬試験の付き添いなど、その例をあげれば枚挙に暇がないものと推測されます。そして何よりも、志望校の選択についての的確なアドバイスは避けて通ることのできない保護者の方の使命であるかも知れません。お子さん一人ひとりの性格が異なるように、私立学校はそれぞれが独自の特色を持っています。保護者の立場で志望校を決めるとすれば、何よりも優先されるのは、「その私学のスクールカラーがお子さんの性格に向いているかどうか」と言うことではないでしょうか？誰よりもお子さんの持ち味についてご存知なのは保護者の方ご自身だからです。

6年間、わが子がのびのびと学校生活を送り、しかも自分の個性を十分に伸ばすことが可能な学校を探し出すことはとても難しいことです。「聖光を知る会」は、わが校の生徒の素顔を垣間見ていただき、お子さんの志望校選択の参考にしていただく機会になればと思料しております。

聖光学院中学校校長 工藤誠一

目 次

♪国語	・ · · ·	P. 2
♪算数	・ · · ·	P.22
♪理科	・ · · ·	P.31
♪社会	・ · · ·	P.43
♪英語	・ · · ·	P.66

国語

「ことばの力」＝「生きる力」

2011年3月11日。7年の歳月が経った今でも、そしてこれからも、私たちはこの日に起こったことを決して忘れることはないでしょう。

多くの大切なものを奪っていった東日本大震災。その1ヶ月後の4月11日、アメリカのワシントン大聖堂で、被災者のために祈りを捧げるミサが執り行われました。その際、私たちの多くが一度は耳にしたことのある、宮沢賢治の詩「雨ニモ負ケズ」が朗読されました。悲嘆に暮れる多くの人々に希望を与えるために、宗派や国境を越え、朗読された賢治の詩は、被災者ばかりではなく、多くの人々の心に響いたに違いありません。「ことば」は時に人を励まし、勇気を与えてくれる。そんな力をも秘めているのです。

皆さんは、幼少期の言語体験にはじまり、様々な読書体験等を通じて、きらめく無数の「ことば」との出会いを重ねてきたはずです。その過程で、元気や勇気をもらったり、夢や希望で心が豊かになったり、または不思議な体験をしたことはありませんか。すなわち「ことばの力」とは、私たちが今日と明日を「生きる力」に他ならないのです。

「ことばの力」が今日と明日を「生きる力」だとすれば、今を生き、そして未来を生きてゆこうとする私たちにとって、「ことば」ひとつひとつに対して真摯に向き合ってゆく姿勢が必要不可欠です。その具体的な姿勢・取り組みを示すと、以下のようになります。

言葉の正確な知識を蓄え、言葉に寄り添い耳を傾け、世界に向けて言葉を発信する。

この点を踏まえ、問題を実際に解いてゆく際の手法について述べてゆくこととします。以下に示した《国語の問題の解き方》は、国語の入試問題という枠組みの中で、先に述べた「(言葉の正確な知識を蓄え,) **言葉に寄り添い耳を傾け、世界に向けて言葉を発信する**」ための、具体的な手法を示したものです。

《国語の問題の解き方》

- 1) 設問の趣旨を正確に把握する。
- 2) 傍線部自体と傍線部の前後関係とを正確に把握する。
- 3) 根拠となる文章中の範囲を画定する。
- 4) 解答の骨子を作成する。

なお、記述問題はもとより、選択肢問題であってもこのプロセスをきちんと踏むことが肝要です。特に選択肢問題を解く際に陥りやすい失敗として、これをないがしろにして解こうとすると、紛らわしい選択肢に惑わされてしまい、正解を見誤るという事態が起こってしまいます。

さて、本校の入試問題では、物語文を中心とする情緒的な文章と、説明文を中心とする

論理的な文章の2題が、読解問題として出題されています。昨年度の第2回入学試験では物語文として、安澄加奈『水沢文具店ーあなただけの物語つづります』を題材として出題しました。以下、正答率が相対的に低かった設問の中から、記述問題として問六、選択肢問題として問八についての考え方と解き方とを、それぞれ解説してゆくこととします。

〔記述問題のポイント／問六〕

(設問) ——線部⑤に「栄はすでに、自分でも気づかないところで答えを出していた」とあります。栄がすでに出ていた「答え」とは何ですか。栄の置かれた状況をふまえて、五十字以内で具体的に説明しなさい。

すでに《国語の問題の解き方》の項として掲げたことを踏まえ、まずは「1) 設問の趣旨を正確に把握する」ことから始めます。設問条件として、以下の2点が挙げられていることに留意しましょう。

- ① 栄がすでに出ていた「答え」
- ② 栄の置かれた状況をふまえて

次に、「2) 傍線部自体と傍線部の前後関係とを正確に把握する」プロセスに移ります。傍線部の前後関係を把握しつつ、まずは①の検討に入りましょう。

すると、傍線部から2行前、「私は、あきらめたくなかったんだ」という記述があり、これこそが栄がすでに出ていた「答え」に他なりません。何を「あきらめたくなかった」のかは、リード文中にも「藤沢栄は、小学校の教員を志望しているが、なかなかその思いは叶わず」とありますし、傍線部に至るまでの文章を読み進めてゆけば、それが「(小学校の) 教員になること」であることは容易につかめるはずです。

次に、「3) 根拠となる文章中の範囲を画定する」プロセスに移ります。具体的には、傍線部から9行前、「物語の終盤では、栄は、たくさんの迷いや不安を抱えながらも、…」の箇所から傍線部に至る範囲に相当します(→本問については、もう少し範囲を広くとっても構いません)。その範囲から、②「栄の置かれた状況」に相当する要素を拾ってゆくと、「(教員採用に合格できないことを含む) 周囲に認められないこと」等の記述が見つかるはずです。

その上で、これらの点を踏まえて「4) 解答の骨子を作成する」プロセスに進みましょう。

*周囲から評価されない日々の中であっても、教員という仕事があきらめきれないということ。(42字)

これでも悪くはないのですが、「50字以内」という文字数制限にはまだ幾分余裕があります。そこで「周囲から評価されない日々」を送っていることに対する栄の心情を解答に加えると、解答の後半部である「あきらめきれない」というもうひとつの心情表現との

対比がより鮮明になります。高得点を目指すならば、是非その要素も盛り込んでほしいところです。

A 受からなかつた試験。若くて未熟な自分、周囲からの非難。どんなにもがいてもがいても、うまくいかない日常。

(…中略…)

B もっと他に、私には、進むべき道があつて……今はまちがつことをしているのかもしれないと思うと、身動きがとれなくなります。 A 周囲にたくさん迷惑をかけて、非難もされているのに、それでもしがみついていることに、意味はあるのかなって……

(…中略…)

物語の終盤では、栞は、B たくさんの迷いや不安を抱えながらも、 C 次の教員採用試験が迫ると、忙しい仕事の合間にぬつて必死に勉強をする。 B 目の前には途方もないほどたくさんの選択肢があり、 そのなかには楽な道も、まったくちがう方向へ進む道も、あつたけれど、C 栞は結局、今之道を歩き続けることを選んでいた。 そしてついに試験に合格して、泣いて、笑っていた。

物語のなかで、B 栞は何度もこの商店街の通りを、下を向いて歩いていた。 そしてこの店の前にある水たまりを見つけるたびに、空を仰いだ。B つらくとも、 C なんとか自分を励まして、顔をあげていた。 ああ、そうだったんだな、と栞は思った。

(私は、あきらめなくなつたんだ。それで水沢さんに、話を書いてとお願いしたんだ)

ほしかったのは、自分を肯定してくれる言葉だった。A 周囲に認められないことに、それでもみつともなくしがみついていることに対する、許しだった。 C 栞はすでに、自分でも気づかないところで答えを出していた。 けれど、A 苦しくて折れそうになった今、 どうしても、"それでいい"と誰かに言ってほしかったのだ。

国語の問題において、皆さんに要求されているのは、原則、与えられた文章の「ある一定の範囲」が理解できているかに尽きます。言い換えれば、それぞれの設問は、ある一定範囲の理解・整理ができているかを問うために設定されているとともに、「ある設問が一定範囲を担当している」とも言えるのです。すなわち、(一般的に) 難易度の高い国語の設問というのは、本問のように、その「ある一定の範囲」が広範囲にわたっていることが多く、その場合は問題文全体の流れをきちんと押さえながら、解答作成の上で必要な要素を広い範囲から丁寧に拾ってゆく必要があります。

*解答のポイント

A要素（栞の置かれた状況）

→周囲から評価されない／試験に受からない

B要素（Aに対する栞の心情）

→迷いや不安／選択肢が多く見える

C要素（「夢」の対象と方向性）

→教員という仕事があきらめきれない

*解答例

周囲から評価されない日々の中で迷いや不安を抱えつつも、教員という仕事があきらめきれないということ。（49字）

ところで、以上の解答例からは、本文中の言葉を中心に構成されている、という点を見て取ることができるかと思います。国語の記述問題に対して、しばしば誤解されている点ですが、必要以上に本文中の記述を自分の言葉に変える必要はないということをしっかりと認識してほしいと思います。完全な言い換えとして認められる場合は問題はありませんが、自分の言葉で置き換えたことによって本文の内容とのズレが生じてしまえば、得点にはなりません。以上の点をまとめると、次のようになります。

- ① 解答の際は基本的に文中の言葉を（ある程度）そのまま用いる。
- ② それが無理であれば、自分の言葉で補う。

②について補足しておきましょう。自分の言葉で補わなくてはならないのは、その多くが、解答の根拠が具体例の場合と、比喩的な表現の場合です。

具体例は、何か伝えたいことの材料に過ぎず、設問において問うとすれば、その具体例を通じて筆者が読者に伝えようとしている一般論であるため、解答もそれに即して一般化・抽象化すべきです（→説明文に多い）。一方、比喩的な表現は、その多くが、前後の文脈があってはじめて理解できるものであるため、解答という独立した形態にはなじみません。これも一般的な表現にした方がよいでしょう。

〔選択肢問題のポイント／問八〕

（設問）本文中の——線部a～fについてそれぞれ説明した文として適切なものを、次のア～カの中から二つ選び、記号で答えなさい。

ア ——線部aの「眼鏡のむこうにある黒目が、こちらをうかがうように鈍く光る」
という表現には、初対面である栢がどんな人物であるかをしっかり見定めようとする、龍臣の慎重な性格が表れている。

イ ——線部bの「龍臣は、長い間黙っていた。あきれた顔をするでもなく、なぐさめを口にするでもない」という表現には、悩み苦しむ栢に対して本心では同情を寄せつつも、それを態度に出すまいという龍臣の決意が表れている。

ウ ——線部cの「『おれ、この店のひじき煮が好きなんです』」という表現には、栢の話を聞いて彼女の物語を綴り、また食事を共にするなかで、徐々に彼女に対して心を開きつつある龍臣の心情の変化が表れている。

エ ——線部dの「『おれは外に出ていますから、代わりに店番をしていてください。レジの鍵は開けておくんで』」という表現には、異性である栢と二人きりになる気ま

すさから何とかして逃れようとする、龍臣の消極的な性格が表れている。

オ 線部eの「報告するように言う」という表現には、まだ栂が物語を読んでいるタイミングで店に戻って来てしまい、栂の邪魔をしてしまったことに対して必死に弁明しようとする、龍臣の理屈っぽい性格が表れている。

カ 線部fの「ほんの少し、誇らしげでもあった」という表現には、不本意な形で実家の文具店を継ぐことになったが、客の望む物語を書き続けるなかで、少しずつ自分のことを肯定し始めている龍臣の姿が表れている。

今回の選択肢問題では、文中における5~6箇所についての、部分読解がそれぞれ問われています。年度によっては、表現の特徴等について出題したケースもあります。

すでに述べた、《国語の問題の解き方》をもう一度思い出してください。このような問題においては、特に「3) 根拠となる文章中の範囲を画定する」プロセスが、一層大切となってきます。いずれの選択肢もそれらしい記述でまとまっており、迷うかもしれませんのが、主観を(できる限り)排除し、客観的な視点からの問題文・選択肢の分析が必要不可欠です。

アは「初対面である栂」の部分がXです。波線部Bの1行前に「この前一度、話を聞いてもらったおかげかもしれない」とあることから、栂と龍臣が初対面でないことが分かります。

イは「本心では同情を寄せつつも、それを態度に出すまいという龍臣の決意」の部分がXです。断っておきますが、「鑑賞」と「(正確な)解釈」は別物です。前者は、趣味の延長線上にあるもので、(ある程度)読者が自分の主觀を差し挟んで読解することも許容されますが、一方「(正確な)解釈」とは、あくまで本文中の記述を客観的根拠としなければなりません。ここでは龍臣の心情は描かれておらず、本文中の記述からもそれを読み取る根拠は存在しない、という理解が正解です。なお、龍臣の動作として、二重傍線部bの1行後に「(ボールペンを)長い指でくるりと回転させた」という記述がありますが、ここからも心情をつかむことはできません。

ウはOです。物語を書いてほしいという栂の希望を受けた際の龍臣の態度は、おしなべて淡々としたものであったのに対し、出来上がった物語を受け取る際に栂が弁当を持っていったことをきっかけに、二人のささやかな会話が始まります。そして問題文の最後の方では、龍臣の口から、店を引き継いだ経緯と決意とが語られていることからも、「徐々に彼女に対して心を開きつつある龍臣の心情の変化」を見て取ることができるでしょう。

エは「異性である栂と二人きりになる気まずさから何とかして逃れよう」の部分がXです。そもそも、店で物語を読んでいくことを栂に提案したのは龍臣自身です。また、問題文後半に、龍臣がそのような行動をとったことに対して(栂側の視点ではあります)「龍臣は、もしかしたら気を遣って外に出て行ってくれたのかもしれない。いや、たんに、目の前で自分の書いた小説を読まれるのが恥ずかしかっただけかもしれないが」とあることも併せて鑑みると、選択肢の解釈はこれらの記述との整合性がとれません。

オは「必死に弁明しようとする」の部分がXです。確かに、自分が書いた物語をまだ栂が読んでいる最中かもしれない、という意識が龍臣の中にあった可能性自体はありますか、

「報告するように言う」という行為からは、龍臣の「必死」さを読み取ることはできません。

力は〇です。「不本意な形で実家の文具店を継ぐことになった」の部分は、傍線部⑥の2行前の『おれは、この店を引き継ぎたくてそうしたわけじゃありません。この足では、他にやりたいこともなくて、ここに来たんです』に対応しています。また「客の望む物語を書き続けるなかで、少しずつ自分のことを肯定し始めている」の部分は、二重傍線部fの「ほんの少し、誇らしげでもあった」の心情を具体的に説明したもので、併せて、直前の『この店、ノートがたくさんあるじゃないですか。（…中略…） そうしたら、無性に、そこに何か書きたくなったんです』の内容も踏まえると、失意の中実家の文具店を継いだものの、結果として自分のやりたいことを見つけたことによる、龍臣のささやかな自負をそこに読み取ることができます。

最後に…

冒頭で述べたことを再度引用します。

言葉の正確な知識を蓄え、言葉に寄り添い耳を傾け、世界に向けて言葉を発信する。

「言葉の正確な知識を蓄え」という部分について、補足しておきます。ここまで述べてきた《国語の問題の解き方》の前提として、与えられた問題文や選択肢を正確に解釈する力、さらにはその土台となる語彙力が、ともに必要不可欠です。ただし、これは一朝一夕に身に付くものではなく、幼少期からの言語体験にはじまり、現在皆さんが「ことば」とどれだけ真摯に向き合っているか、その姿勢が最終的に大きな差となって現れます。今からでもできることとして、国語の問題集や過去問を解き終えた後はもちろんのこと、日常において知らない、または気になった言葉に出会ったら、おっくうがらず、その都度辞書を引いてみることがとても大切です。その過程で得た語彙の蓄積、ならびに姿勢が、単なる中学入試突破にとどまらず、皆さん自身の未来を切り拓く「生きる力」を大きく育んでくれるに違いありません。

一、次の文章は、安澄加奈の『水沢文具店　あなただけの物語つづります』の一節である。主人公の藤沢栂は、小学校の教員を志望しているが、なかなかその思いは叶わず、現在は正規採用ではない教員として日々教壇に立っている。そんな中、近所の「水沢文具店」で、店主の水沢龍臣のことを知る。龍臣は、ノートを買った客が希望すれば、その人に合った物語を書いてくれていた。これを読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

栂が水沢文具店の前を通り過ぎようとしたときだつた。ちょうど店から小柄なおばあさんが出てきて、栂と目が合つた。二週間ほど前、主人の話をオーダーしていた人だつた。おばあさんは栂の顔を憶えていたようで、「あら、こんばんは」とあいさつしてくれた。栂はあわててあいさつを返した。それからややためらつたものの、どうしても気になつたことを、おばあさんにたずねた。

「あの、この前注文されていたお話……もうできましたか？」

おばあさんは、相変わらずやせていて、頼りない細い肩かたをしていた。それでも前より、いくらか生気が戻もどつたようだつた。目じりにしわをつくつて、おばあさんは言つた。

「ええ、おかげさまで。あの人の生きていた頃ころのお話を、素敵すてきに書いていただきました。まさかあんなにきちんとしたものを書いてもらえるとは思つていなくて、びっくりしてしまつたくらい。今日はあらためて、そのお礼にうかがつたところです」「

「あの……」

どんなお話をでしたか？
と訊きこうとして、けれど失礼になると想いとどまり、栂は口をつぐんだ。しかし、おばあさんは栂が訊きたいことがわかつたようだつた。おばあさんは、そつと言つた。

「水沢さんはね、どんな話を書いてくれるのかと思つたら、何年もむかしの、私と主人のちょっとした日常の思い出を、そこだけ切りとるようにして書いてくれたんです」

そつと息をつくと、おばあさんは続けた。

「本当に、当時は氣にもかけていなかつたほど、些細ささいな日常の出来事です。でも、あのお話を読んで、ああいう毎日を、私たちは繰り返してきたんだなと思つたら……それがもう終わつてしまつたんだと思つたら、涙なみだが出ました。考えてみたら、私、主人が亡なくなつてから、きちんと泣いていませんでした。主人が亡くなるまでの看病も大変でしたし、亡くなつたあとも、やることはたくさんあつて。もう年だから。いつお迎むかえが来てもおかしくないから。そんなふうに、周りに悟さとつたようなことを言つてきょう丈きじょうにふるまつっていました。でも、あのお話を読んで、まるで子供みたいに一度わあわあと声をあげ

て泣いたら、①ほんやりしていた頭が、少しはつきりした気がします」

そう言つて、おばあさんは、夜のなかに淡く浮かぶ水沢文具店の看板を仰いだ。葉は、そんなおばさんの横顔を見つめていた。少しづつから、おばあさんは何か思い出したように、葉に顔を向けた。

「そういうえば……この店主さん、下のお名前はなんというのかしら」

「たしか、龍臣さんという方です」

葉はおばあさんに教えた。すると、そうですか、とつぶやいて、おばあさんは記憶をたぐりよせるよう、頬に細い指をあてた。

「このお店、以前はうちの主人と同い年の店主さんがきり盛りしていたんです。その方と主人は、気が合つたようで仲が良くて。その方、当時は高校生だったかしら……野球がとても上手なお孫さんがいたんです。ピッチャーをしていて、将来はプロになるんじやないかと期待されているくらいすごい子なのだと、主人が話していた記憶があります。その子の名前が、たしか龍臣くんだったと……」

おばあさんは、水沢文具店の店内をふり返り、A目を細めた。

「そう、彼がそのお孫さんなの……その子がこのお店を継いだのね」

最後の方はひとり言のように、おばあさんはつぶやいた。

おばあさんは葉に別れを告げると、夜の商店街を歩いて帰つていった。葉は、しばらくその後ろ姿を見送つていた。②おばあさんのどこか満ち足りたような表情が、頭に残つて離れなかつた。しばらく迷つたものの、葉はやがて、店の戸を開いて、なかに入つた。

カウンターには、龍臣がいつもと同じように座つていた。目の前のノートに顔を伏せ、形のよい手でペンを持ち、何かを書き込んでいた。葉は、この店に入つて一番はじめに目についた、シンプルな青一色の表紙のノートと、ノックする部分に銀色の小鳥のチャームがついているボールペンを手に取つた。そしてレジに持つていき、店主に差し出した。

「あの、私もひとつ、話をお願ひしてもいいですか？」

龍臣は、そこでようやく顔をあげた。葉がここにいることに、はじめて気づいたようだつた。a眼鏡

のむこうにある黒目が、こちらをうかがうように鈍く光る。

「いいんですけど……じゃあ、あなたはどんな話が読みたいですか？」

「え……」

自分から頼んでおいて、葉は、龍臣の質問に答えることができなかつた。文斗やおばあさんを見て、

龍臣に話を書いてもらいたいと思ったものの——どんな話が読みたいか、それは葉にもよくわからな

かつた。そんな葉の心境を、龍臣はぐみとつたようだつた。しばらくすると、わかりました、と静かに言つた。

「それじゃあ、あなたの話を聞かせてください。話を書くために、おれはあなたのことを知らなきやならない」

葉は、いつも子供たちが遊んでいる小上がりに腰かけて、ぽつりぽつりと龍臣に話はじめた。
途中でみつともなく泣きだしてしまうのではと心配したが、そうはならなかつた。この前一度、話を聞いてもらつたおかげかもしない。葉はあまり抵抗を感じず、自分の毎日を、思いのほかB淡々と語ることができた。

受からなかつた試験。若くて未熟な自分。周囲からの非難。どんなにもがいてももがいても、うまくいかない日常。

「……私が学校の先生になつたのは、単純に子供が好きだつたからです。でも、それだけじゃ、駄目だつたのかもしれません。たとえば素質とか、技量とか自信とか……どうしても必要で、でも私には欠けていて、補うことができないものもあるのかもしない」

葉は、うつむいたまま小声で言つた。こんなどうしようもない弱音を吐いている自分が、情けなくて仕方がなかつた。

「もっと他に、私には、進むべき道があつて……今はまちがつたことをしているのかもしないと思うと、身動きがとれなくなります。周りにたくさん迷惑をかけて、非難もされているのに、それでもしがみついていることに、意味はあるのかなつて……」

b 龍臣は、長い間黙つていた。あきれた顔をするでもなく、なぐさめを口にするでもない。

そのとき龍臣が、長い指でくるりと回転させたのは、葉が選んだボールペン。そして目の前に置いて見つめているのは、まだ文字の綴られていらない青いノートだつた。

“ご注文いただいたもの、できました。”

短く愛想のないメールが水沢文具店の店主から届いたのは、数日後の日曜日だつた。午前も終わりに差しかかる頃まで寝ていた葉は、それを見て、ようやくベッドから起きだした。疲れた体はまだふとんのなかにいたいと要求していたけれど、葉はどうにかそれに逆らつた。軽く身支度をして、水沢文具店にむかつた。

葉のアパートから、商店街の通りに入つてすぐ。公園のとなりには、葉がよく行く弁当屋がある。

ちょうど昼時といふこともあって、栢はそこで生姜焼き弁当を二つ買った。龍臣は、ノートとペン代だけでかまわないと言っていたけれど、栢はせめてもう少し、何かをつけ加えたいと思つていた。

水沢文具店の硝子戸を開けると、日曜日のためか、めずらしく子供たちはいなかつた。栢が歩み寄ると、奥のカウンターに座っていた龍臣は、青い表紙のノートと銀の小鳥のチャームがついたペンを栢の前に出した。

「お待たせしました。ご注文のものです」

ノートを受け取った栢は、その代わりのように、店主に弁当の入った袋を差し出した。

栢と龍臣は、店で一緒に買つてきた弁当を食べた。龍臣はカウンターの席に座つたまま、栢は小上がりに腰掛け——栢はもともと内気な方だし、龍臣は無口なので、ほとんど会話はなかつた。けれど、不思議と気詰まりな感じはしなかつた。生姜焼きは甘辛く、ご飯はふつくらとしていておいしい。最近の栢は、仕事の雑務をこなすかたわら食事をする習慣がついていた。こんな風に味を噛みしめながら食事をしたのは、久しぶりのことだつた。

c 「おれ、この店のひじき煮が好きなんです」

龍臣が、箸でつまんだ具だくさんのひじき煮を眺めながら言つた。龍臣の、店主ではない素の顔が急にあらわれた気がして、栢はちょっと驚いた。

「そう、よかつた。おいしいですか？」

「おいしい」

単純明快な受け答えに、栢はなぜだか、ほつとした。

「ソレ、このままうちで読んでいきますか」

龍臣がふり返つて言つた。彼が言つているのが、自分が受け取つたノートのことだとわかり、栢はずねた。

「いいんですか？」

「いいんですけど、条件があります」

弁当を食べ終えた龍臣は、手早くゴミを片付けて、カウンターから立ち上がつた。

d 「おれは外に出ていますから、代わりに店番をしていてください。レジの鍵は開けておくんで」

そう言い置くと、龍臣はゆっくりと戸口に歩み寄り、外に出て行つた。そのときになつて、栢ははじめて気がついた。龍臣が、左足を引きずるようにして歩いていることに。思えば、栢は今まで、カウン

ターの椅子に座っている龍臣しか見たことがなかった。

栢は戸惑つたものの、龍臣がさつきまでいたカウンターの席に移動し、③ぎこちなく椅子に座った。

店番を頼まれたといふこともあり、ノンビリ龍臣から受け取ったノートを読むことにした。

龍臣は自分に、一体どんな話を書いてくれたのだろうと、栢は軽い緊張と不安をおぼえた。栢は少し震える指先で、そつと青いノートを開いた。

ページの罫線上には、丁寧で緻密な文字が綴られていた。④そこにあつたのは、脚色も誇張もない、ただ滑稽なほどありのままの自分の日常だった。

物語の主人公は、栢自身だった。栢は毎日、懸命だった。それが何かを変えようとにつながらなくとも、悩んで、あがいていた。そして、とくに物語のなかで光明に描かれていたのは、この店に来ているときの自分の姿だった。仕事のことをつらい、きついと言ひながら、栢は子供たちが喜びそうなスタンプを見つけると、すぐに手に取っていた。色とりどりのチョークを龍臣から見せられたときには目を輝かせ、学級日誌に使えそうなノートや、めずらしい色のペンを見つければ、せつせと購入していた。そんな自分の姿が、丁寧に描かれていた。

物語の終盤では、栢は、たくさん迷いや不安を抱えながらも、次の教員採用試験が迫ると、忙しい仕事の合間をぬつて必死に勉強をする。目の前には途方もないほどたくさんの選択肢があり、そのなかには楽な道も、まつたくちがう方向へ進む道も、あつたけれど、栢は結局、今の道を歩き続けることを選んでいた。そしてついに試験に合格して、泣いて、笑っていた。

物語のなかで、栢は何度もこの商店街の通りを、下を向いて歩いていた。そしてこの店の前にある水たまりを見つけるたびに、空を仰いだ。つらくても、なんとか自分を励まして、顔をあげていた。

ああ、そうだったんだな、と栢は思つた。

(私は、あきらめたくなかったんだ。それで水沢さんに、話を書いてとお願いしたんだ)

ほしかつたのは、自分を肯定してくれる言葉だった。周囲に認められないことに、それでもみつともなくしがみついていることに対する、許しだった。⑤栢はすでに、自分でも気づかないところで答えを出していた。けれど、苦しくて折れそうになつた今、どうしても、"それでいい"と誰かに言つてほしかつたのだ。

ふと涙がこぼれ、そうになつたので、そつと息をつき、気持ちを落ち着けた。龍臣は、もしかしたら気を遣つて外に出て行つてくれたのかもしれない。いや、たんに、目の前で自分の書いた小説を読まれるのが恥ずかしかつただけかもしれないが。

葉はしばらくぼんやりと、硝子戸のむこうに見える、商店街の通りを眺めていた。どのくらいの時が経つただろうか。戸が開いて、外の風が入ってきた。客が来たのかと、葉は慌てて顔を取り繕つたが、そこにぎやかな声は、耳になじんだものだった。

「あ、葉姉ちゃん！」

文斗が言つた。常連の子供たちが次々と店のなかに入つてくる。続いて入つてきたのは龍臣だった。龍臣は、風で少し乱れた黒髪にじこか困つたように手をやり、左足を引きずりながら、カウンターに歩み寄つた。

「公園の前を歩いていたら、つかまりました」

e 報告するように言うので、それがなんだかおかしくて、葉は思わず笑つてしまつた。カウンターの席を立ち、龍臣に譲つた。

「すばいですね」

いつもの席に座つた龍臣に、葉は、心をこめて言つた。

「誰かのほしい言葉を、こんな風にノートに書いて渡してくれるなん……すばい」とがでるんですけどね」

龍臣は何も言わずに葉の顔を見つめていた。やがて目を伏せ、自分の左足に手を置いてつぶやいた。「それでも、おれが本當になりたかったのは、ちがうものです」

葉はどきりとした。この前、おばあさんが言つていたことが思い出された。高校野球の選手。将来を期待されていたピッチャー。

「おれは、この店を引き継ぎたくてそうしたわけじゃありません。この足では、他にやりたいこともなくて、ここに来たんです」

それを聞いた葉は、⑥せつなくなつた。龍臣にとってこの店は、望まない場所でしかないのだろうか。気づくと、小さな声でたずねていた。

「それじゃあ水沢さんは……どうしてこのお店で、こんな風に、ノートに物語を書いているんですか？」

龍臣はしばらく黙つていた。視線をあげ、商品の置かれた棚を見つめ、口をひらいた。

「この店、ノートがたくさんあるじゃないですか。もともとは、祖父の趣味からはじまつた品ぞろえなんですが……それで毎日毎日、まだ何も書かれていらない真っ白なノートに囲まれていたら、あるときふと、自分の人生も、こんな風に振り出しに戻つたんだと思えて。そうしたら、無性に、そこに何か

書きたくなつたんです」

顔をあげた龍臣は、かすかにほほえんだ。それはどこかさみしげな笑みだつたけれど、ほんの少し、
誇らしげでもあつた。

—— 安澄加奈 『水沢文具店

あなただけの物語つづります』による

(問題作成上の都合から一部原文の表記を改めた)

問一 線部 A 「目を細めた」、B 「淡々と」について、これらの言葉を本文中と同じ意味で使っている文として最もふさわしいものを、次のア～オの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

A 「目を細めた」

- ア 母に頼まれた買い物の内容を思い出そうと目を細めた。
イ 雷が鳴り響く中、暗闇が一瞬明るくなつたので、つい目を細めた。
ウ 炎天下で向こうから手を振る彼女の姿をはつきり見ようと目を細めた。
エ A.Iを巡る最近の動向を聞いて、機械に疎い私は目を細めた。
オ 公園で無邪気にはね回つて遊ぶ子犬を見て目を細めた。

B 「淡々と」

- ア 台風はどこかへ行つてしまい、今は雨垂れが淡々と落ちているだけだ。
イ 人々の祈りもむなしく雨は淡々と強くなり、運動会は中止となつた。
ウ 大好きなアイドルの歌が聞こえてきて、淡々と気分が乗ってきた。
エ 泣きたくなるほどたくさんある数学の宿題を淡々とこなす。
オ しんと静まりかえった古池で、鯉が淡々とはねている。

問二 線部①に「ほんやりしていた頭が、少しはつきりした気がします」とあります。それは

どういうことですか。その説明として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 夫の看病や葬儀の忙しさの中で、自分の生き方について深く考え直すこともできないままに

日々を送っていたが、物語を読み、悲観的になつていて自分に気づいて泣いたことで、夫のいな
いこれから的人生を大切にしなくてはならないと前向きな気持ちになつたということ。

イ 忙しさに追われたり、自然なことだと強がつたりして、夫の死と向き合つてこなかつたが、物語を読み、夫が自分にとつて大切な存在であつたことを実感し、それを失つたことを思い知らされて泣いたことで、夫の死を現実のものとして受け入れられるようになつてきたということ。

ウ 大変な看病や一人で生きることの苦しさを経験して、感情を抑え込む日々が続いていたが、物語を読み、夫とのありのままの日常の大切さに気付いて泣いたことで、これからは我慢しそうのことなく、自分の気持ちを素直に出して生きていこうと考えるようになつたということ。

エ 夫の死に対する不安や死後の寂しさゆえに呆然としてしまい、何も手に着かない日々が続いていたが、物語を読み、自分がどういう気持ちで暮らしていたかを思い出して泣くことで、これらも自分らしく暮らしていくばよいと安心できたということ。

オ 看病の辛さに耐えたり、周囲に文句を言わせないようにしたりして、夫の死にも負けない気持ちを育ててきたが、物語を読み、自分にとつてかけがえのないものを失つたことを実感して泣いたことで、自分の心の弱さをも受け入れられるようになつてきたということ。

問三 線部②に「おばあさんのどこか満ち足りたような表情が、頭に残つて離れなかつた」とあります

りますが、このときの栢の心情を説明した文として最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 龍臣たつおみの書いた物語によって大切な日常を思い出させてもらつたおばあさんの優しげな表情を見

ているうちに、日々を懸命けんめいに生きることの大切さに思いをはせている。

イ 龍臣が書いた物語の内容をいきいきと語つているおばあさんの姿を見て、自分もおばあさんの物語によつて救われたいという想いにとらわれている。

ウ 龍臣の過去の出来事を知るかのようなおばあさんの言葉を思い返すたびに、もっと龍臣のこと

が知りたいという気持ちが少しづつ育ち始めている。

エ 龍臣に書いてもらつた物語によって気持ちに整理がついたかのようなおばあさんの姿を見て、自分も物語を書いてもらいたいという気持ちが次第しだいにつのつてきている。

オ 龍臣の物語によつて夫の死から立ち直つたおばあさんの姿を見て、日常生活の中で落ち込んでしまいがちな自分のことをどうにかしなければと思い始めている。

問四 線部③に「ぎこちなく椅子に座った」とあります。それはどうしてですか。その説明と

して最もふさわしいものを、次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 今までしたことのない店番を任せたことに戸惑うと同時に、龍臣が物語を書いてくれたノートをこの場で今すぐ読むことにためらいを感じたから。

イ 龍臣の代わりに店番をしながらノートを読むという思いがけない展開に戸惑うと同時に、龍臣の空間に入り込むような気がしてためらいを感じたから。

ウ 予期せぬ展開にかすかな胸の高鳴りを感じている自分に戸惑い、龍臣のぬくもりがほのかに残る椅子にそのまま座ることにためらいを感じたから。

エ 龍臣の椅子に座ることによって、今まで見ただった龍臣の領域に一步踏み込むことに戸惑い、そこまでしてもよいのだろうかとためらいを感じたから。

オ 龍臣があたたかく、店番をしながらノートを読むという条件の真意が分からず戸惑い、こうした不思議な気持ちのまま龍臣の椅子に座ることにためらいを感じたから。

問五 線部④に「そこにあつたのは、脚色も誇張もない、ただ滑稽なほどありのままの自分の日常だった」とあります。それはどういうことですか。その説明として最もふさわしいものを、

次のア～オの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 龍臣の書いてくれた物語は、これから先のことにも触れていたが、目の前のこと懸命な葉の日々の様子をそのまま描くものであったということ。

イ 龍臣の書いてくれた物語は、すべてが事実ではないが、常にユーモアを忘れずに描かれており、葉に対する温かい眼差しを感じさせるものであったということ。

ウ 龍臣の書いてくれた物語は、多くの選択肢を示して葉を迷わせるものであつたが、それを読むことでかえつて葉の決意を促すようなものであつたということ。

エ 龍臣の書いてくれた物語は、時には厳しい現実を感じさせることもあつたが、葉を見守るような温かい雰囲気で彩られており、読んでいて嬉しくなるものであつたということ。

オ 龍臣の書いてくれた物語は、面白い部分がいくつもあつたが、大げさに書いてある部分はなく、どれも葉の日常に実際に起こった出来事を題材とするものであつたということ。

問六 —— 線部⑤に「葉はすでに、自分でも気づかないところで答えを出してしまった」とあります。葉がすでに出ていた「答え」とは何ですか。葉の置かれた状況をふまえて、五十字以内で具体的に説明しなさい。

【下書き欄】—— 必要なれば使いなさい。

50

40 20

問七 —— 線部⑥に「せつなくなつた」とあります。それはじつじでですか。その理由を六十字以内で説明しなさい。

【下書き欄】—— 必要なれば使いなさい。

60

40 20

問八 本文中の＝線部 a～fについてそれぞれ説明した文として適切なものを、次のア～カの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ＝線部 aの「眼鏡のむけたにある黒目が、こちらをうかがうように鈍く光る」という表現には、初対面である栞がどんな人物であるかをしっかりと見定めようとする、龍臣の慎重な性格が表れている。

イ ＝線部 bの「龍臣は、長い間黙っていた。あきれた顔をするでもなく、なぐさめを口にするでもない」という表現には、悩み苦しむ栞に対して本心では同情を寄せつつも、それを態度に出すまいという龍臣の決意が表れている。

ウ ＝線部 cの「『おれ、』の店のひじき煮^にが好きなんです」という表現には、栞の話を聞いて彼女の物語を綴り、また食事を共にするなかで、徐々に彼女に対して心を開きつつある龍臣の心情の変化が表れている。

エ ＝線部 dの「『われは外に出てこますから、代わりに店番をしていてください。レジの鍵^{かぎ}は開けておくんで』」といふ表現には、異性である栞と一人きりになる気まずさから何とかして逃れようとする、龍臣の消極的な性格が表れている。

オ ＝線部 eの「報告するように言つ」という表現には、まだ栞が物語を読んでいるタイミン
グで店に戻つて来てしまひ、栞の邪魔^{じやま}をしてしまつたことに對して必死に弁明しようとする、龍
臣の理屈つぽい性格が表れている。

カ ＝線部 fの「ほんの少し、誇らしげでもあつた」という表現には、不本意な形で実家の文
具店をつゞくことになつたが、客の望む物語を書き続けるなかで、少しずつ自分のことを肯定し始
めている龍臣の姿が表れている。

算数

好奇心旺盛で、粘り強い子

1. 入試のねらい

算数や数学では、正解を導く過程で様々な力が要求されます。例えば単に計算といつても、公式に当てはめるだけの単純作業だけではなく、その過程でミスを減らすための工夫や整理の仕方を考える習慣を身につけることも大切です。ここまでできて初めて計算力があるといえます。また、文章題や応用問題を解くには、本質を見抜く力が要求され、その前提条件として、題意を正確に読み取る読解力、条件を図や表を用いて整理する情報整理能力、結果や成り立つ事実を予想する推理力などが必要です。その上で論理を用いて解答に至ります。こうした力を養うために我々は算数や数学を学んでいるというべきでしょう。なかなか思いつかないような面白い発想、数・図形の特徴を見抜く鋭い観察力といった数学的センスは、これらの能力が備わっていて初めて本当の威力を発揮するのです。

科学が急速に発展している現在では、数学を科学の言語として、また物事の見方や行動の仕方の哲学として捉えて学ぶことがますます要求されてきています。つまり、数学を学ぶことによって、ものの見方や考え方にも磨きがかかるべきなのです。そのためには、安直で飽きっぽい子ではいけません。何事にも好奇心旺盛で、まずは自ら積極的に手を動かし、情報を整理しながら「ああでもない、こうでもない」と粘り強く丁寧に考える、そして分からなければ疑問点をそのままにしないで、友人や先生に質問したり議論したりして納得するコミュニケーションの習慣が大切です。

一方で、小学校時代は算数のセンスがあって算数はよくできただろうと思われる子が、中学以降の数学で振るわなくなることがあります。この最大の原因是、自分のセンスだけに溺れて地道な労力を惜しんでしまうことです。センスもあれば言うことはないのですが、センスをカバーするだけの粘り強さを有する方が多方面への将来性があると言えます。その意味で、粘り強く頑張ることができる小学生が「勉強してよかったです」というような入試にしたいと考えています。

2. 問題の出題傾向と対策

本校では、受験生の能力と努力の成果がはっきり表れるような問題の作成を心がけています。本校の算数の入試問題が極端に難しくなく、また易しすぎる問題をあまり出題しないのもそのためです。入試問題をご覧になっていただければ、逆に本校の受験生のレベルもわかると思います。

2018年2月に実施された入学試験において、合格者の算数の平均点（150点満点）は、第1回入試が117.0点（得点率：78.0%）、第2回入試が117.0点（得点率：78.0%）でした。

構成は主として「数の性質」「場合の数」「比」「速さ」「平面図形」「立体図形」などからで、大問4題と小問集合1題の合計5題となっています。最近の入試では、最低1問は作図を含めた記述式の問題を出題しています。特に最終的な解答に至るまでの過程で比較的長い計算が必要な問題、線分図やグラフを用いて状況を整理しながら解く必要のある問題などで思考過程の記述を要求し、「粘り強さ」「丁寧さ」を初めとする本校の生徒にふさわしい能力を測ることにしています。言葉の表現が適切でなかったり、あまりに作図がいい加減だったりすると減点の対象としています。逆に、結論にたどりつかなかったとしても、ある程度分析できていて、解答に必要な正しい式や図が書けていれば部分点を与えています。そのほか大問の中では、途中の思考過程を問うような設問を設けることによって部分的な評価をするようにしています。

最後に入試問題の対策ですが、本校では典型的なタイプの問題に多少のひねりを加えて出題されていることに気がつくと思います。算数の力を身につける上で、まずは基礎レベルから標準レベルの問題を繰り返し練習することが第一ですが、入試問題ではさらに応用力が必要になってきます。それは、市販の問題集にある問題をそのまま出題するわけではないからです。応用力はすぐには身につかないかもしれません、頭を使ってじっくり考えることによって、少しずつ身についていきます。したがって、問題集でいろいろなタイプの問題にじっくりと時間をかけて挑戦し、納得するまで繰り返し勉強しておくことが合格への近道です。

◇今年度の入試問題より

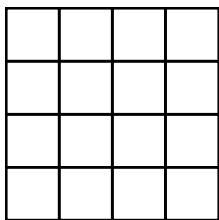
今年度の入試問題は「第1回入試（2月2日実施）」、「第2回入試（2月4日実施）」とともに合格者の平均正答率が80%と高得点で、例年通り合格者の平均点と受験者全体の平均点の差が約20~25点ありました。

今年度も例年と同じように単元では「図形」、「規則性の問題・場合の数」、「速さと比」に関する問題で特に差がついています。読解力も重要で、正確に文章を読みとっていない、あるいは大雑把に流し読みをして間違った認識をしている答案が散見されました。近年頻出の作図問題でも、正確な位置関係を把握せず、いい加減に描いては大失敗につながっています。

それでは、今年度の入試問題の中から合否を左右した問題として、「第1回入試第4問（平面図形総合・場合の数）」、「第2回入試第4問（立体図形）」、「第1回入試第2問（演算と数列）」を紹介いたします。

1 第1回入試第4問(平面図形総合・場合の数)

1辺の長さが4cmの正方形16枚を4×4のマス目状に並べた图形Aがあります。图形Aの小さい正方形16枚のうち、いくつかを黒く塗った图形について、次の問いに答えなさい。



图形A

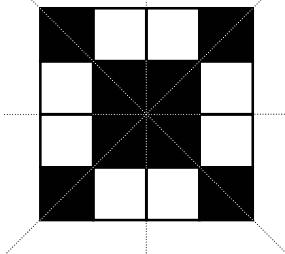


図1

- (1) 図形Aのマス目を、図1のように4本の直線について線対称になるように黒く塗る方法として考えられるものは、全部で何通りありますか。ただし、全く塗られていない場合とすべて塗られている場合もその方法に含むものとします。

いくつかのマス目を黒く塗った图形Aと、縦が16cm、横が4cmの長方形Bを図2のように直線上におき、图形Aを矢印の方向に毎秒4cmの速さで移動させていきます。图形Aの黒く塗られた部分と長方形Bが重なる部分の面積の和をSとするとき、图形Aの移動を始めてから経過した時間と面積の和Sとの関係を表すと、図3のようになります。

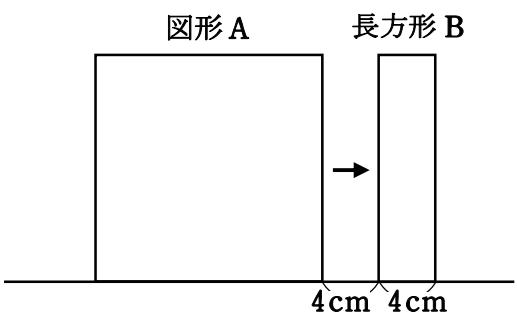


図2

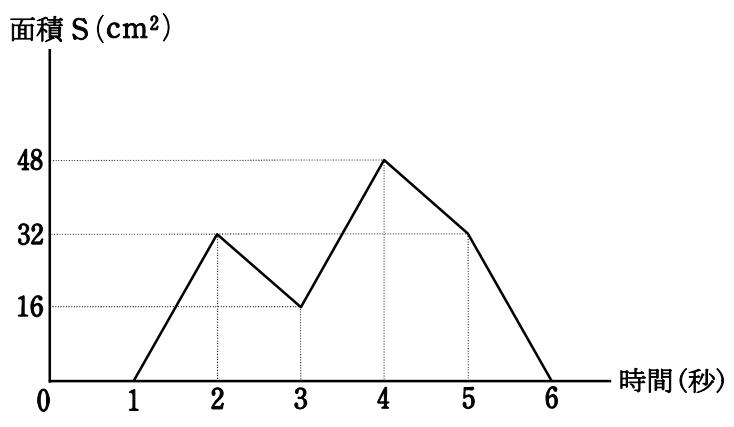


図3

(2) 図形 A のマス目を黒く塗る方法として考えられるものは、全部で何通りありますか。

(3) 面積の和 S が 3 回目に 20 cm^2 になるのは、図形 A が移動を始めてから何秒後ですか。

次に図 4 のように、長方形 B の内部にある 4 つの長方形（正方形を含む）部分を黒く塗ることにします。いくつかのマス目を黒く塗った図形 A と、この長方形 B を図 2 のように直線上におき、図形 A を矢印の方向に毎秒 4 cm の速さで移動させていきます。図形 A の黒く塗られたマス目と長方形 B の黒く塗られた部分が重なっている部分の面積の和を T とするとき、図形 A の移動を始めてから経過した時間と面積の和 T との関係を表すと、図 5 のようになります。

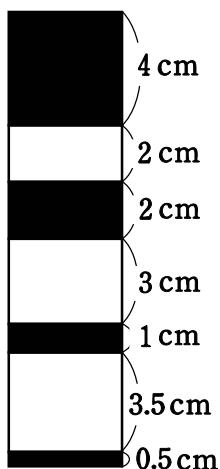


図 4

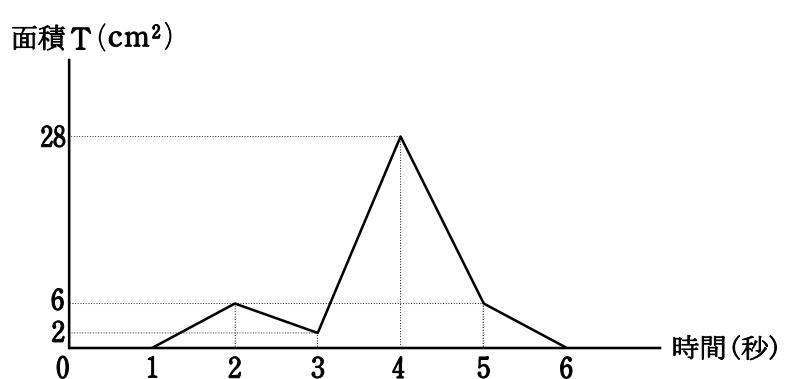
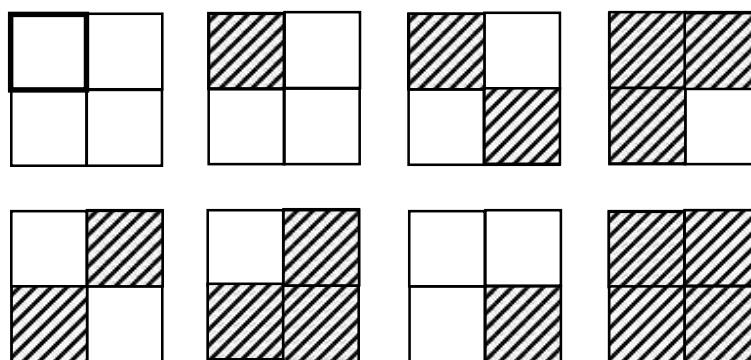


図 5

(4) この図形 A で黒く塗られているマス目はどこですか。解答欄のマス目に斜線で示しなさい。

講評 問題の難易度はそれほど高くはないですが、一問の中に様々な要素が詰め込まれているので、状況を正確に読むことが求められます。（1）の正答率が低く、（3）の速さでも頻出のタイプの問題の出来が最もよかつたです。

解答 （1）対称性があるということは、左上の 4 マスの白黒が分かれれば、残りのマス目の色分けが決まることに注目します。あとは対角線について対称なものを挙げるだけでできます。ここまでわかれば地道に調べていきましょう。8通り



(2) 各列ごとに何マスが黒く塗られているかを調べます。図形Aの一番右端の4マスは、2秒後の面積が 32 cm^2 であることから $32 \div 16 = 2$ マスが塗られていることがわかります。右から2列目は 16 cm^2 なので1マス。左から2列目は3マス、一番左の列は2マス塗られていることがわかります。

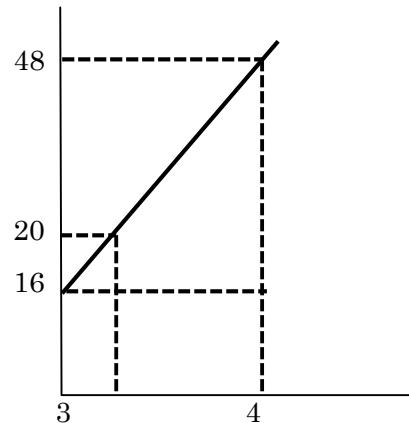
あとは、各列ごとにどのマス目が塗られている可能性があるのかを調べます。

一番右側は4マスのうちの2マスが塗られているので、6通り(数えます)。右から2列目は4マスのうち1マスなので、4通り。左から2列目は4マス中3マスで、4通り。一番左の列は6通りとわかります。

したがって塗り方の総数は、 $4 \times 6 \times 4 \times 6 = \boxed{576}$ 通り

(3) 図3のグラフで、3秒～4秒の間であることがわかる。あとは線分比の関係を考えればできます。3秒～4秒の区間を $(20 - 16) : (48 - 20) = 1 : 7$ に分割する時刻であるから、

$$3+1 \times \frac{1}{8} = \boxed{3 \frac{1}{8} \text{ 秒後}}$$

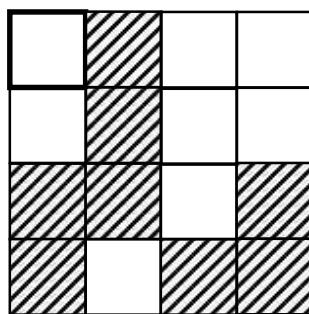


(4) 図形Aの一番右側の列が図形Bと重なるとき、 $6 \div 4 = 1.5\text{ cm}$ が重なった部分の縦の長さの和である。

したがって $1.5 = 1 + 0.5$ であるから、下2マスが塗られていることが分かります。

同様に右から2列目は、 $2 \div 4 = 0.5\text{ cm}$ であるから、一番下のマス目だけ塗られているとわかります。左から2列目は、 $28 \div 4 = 7\text{ cm}$ で、 $7 = 4 + 2 + 1$ から、上3マスが塗られているとわかり、一番左の列は、 $6 \div 4 = 1.5 = 1 + 0.5$ で、一番左のマス目と同じであるとわかります。従って図形A

は以下の通りです。左右逆転した人が少なからずいました。気をつけましょう。



参考 図形Bの帯の縦の長さが $0.5, 1, 2, 4$ と2倍になっていることから、2進数との関連があることに気づいた人がいるかと思います。1～15までの数は $1, 2, 4, 8$ のいくつかを選んで和をとったものとして表せます。これと同様に、各列のマス目の塗り方は、 $0.5, 1, 2, 4$ の選び方と対応していて、さらにその長さの和をとったものが面積Tと一対一対応しているということが分かります。つまり面積Tの値4つを見れば、どのマス目が塗られているのかが判明するというわけです。本問はこのことをを利用して作問しました。

□第2回入試第4問(立体図形)

図1のような $AB = 6\text{ cm}$, $BC = 8\text{ cm}$, $BF = 4\text{ cm}$ の直方体 $ABCD-EFGH$ があります。この直方体から、「面 $BFGC$ を含み、それ以外の面もすべて平面である立体 X 」を取りのぞくと、8個の平面によってできる「立体 Y 」になります。図2は、立体 Y の展開図ですが、Ⓐ，Ⓑ，Ⓒの部分はかかれていません。

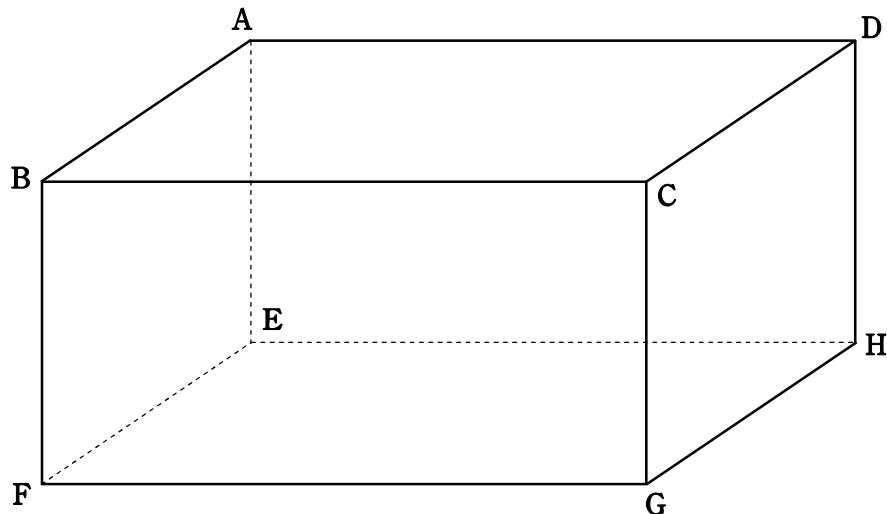


図1

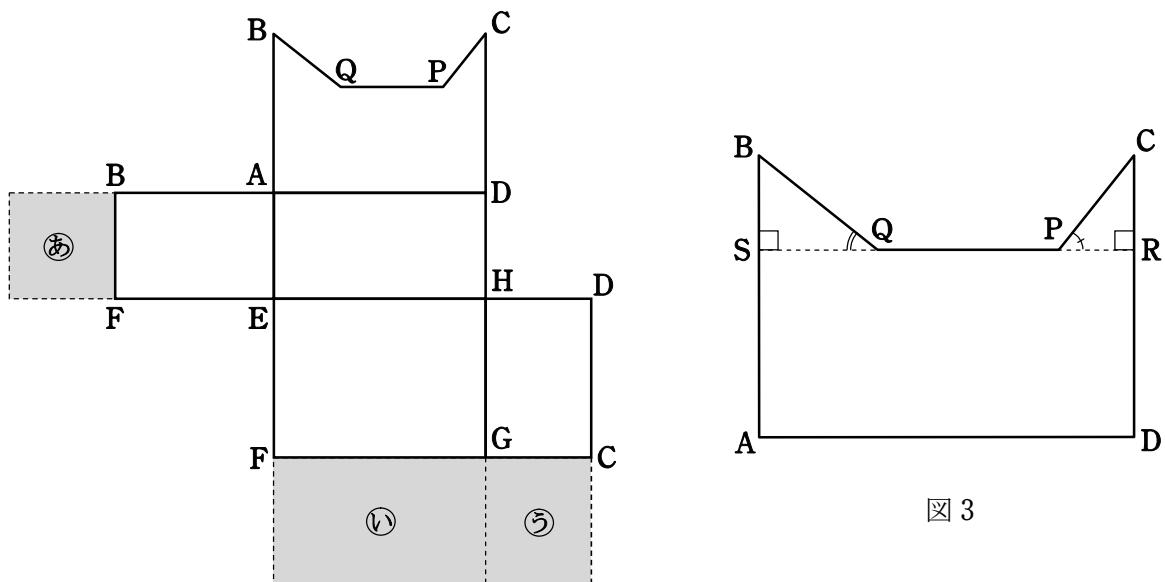


図2

図3は、立体 Y の面 $ABQPCD$ だけをかいたものです。辺 PQ の延長線と辺 CD の交点を R 、辺 PQ の延長線と辺 AB の交点を S とすると、角 PRC と角 QSB はともに直角であり、角 CPR と角 BQS の和は90度になりました。 $CR = BS = 2\text{ cm}$, $PR = 1.6\text{ cm}$ のとき、次の問い合わせに答えなさい。

- (1) QS の長さは何cmですか。

(2) 解答欄の図は立体Yの展開図です。Ⓐ, Ⓡ, Ⓣの部分にそれぞれふさわしい図形をかいて、展開図を完成させなさい。ただし、Ⓐ, Ⓡ, Ⓣの部分にはそれぞれ立体Yの1つの面をかくものとします。また、かいた図形の頂点にはA, B, C, D, E, F, G, H, P, Qの中から適するものを選び、それぞれ図に記入しなさい。

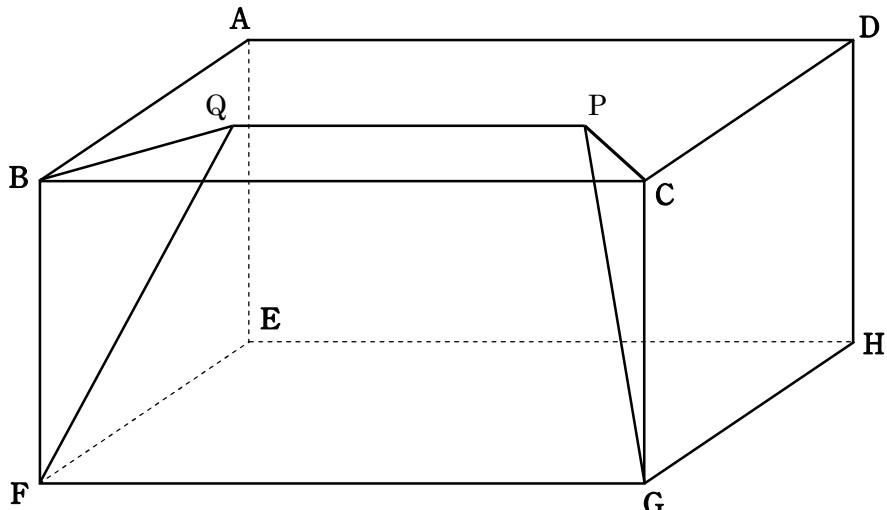
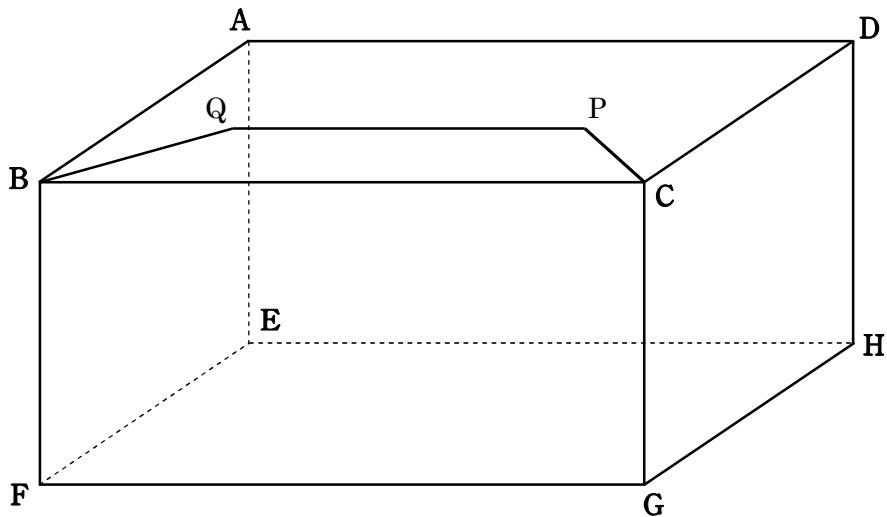
(3) 立体Xの面は何個ですか。 (4) 立体Yの体積は何cm³ですか。

講評 3面ぬきの展開図は初めてであったことでしょうし、えぐられた立体の展開図ということもあります。難易度は高かったと思いますが、想像以上に最後までよくできていました。合格するには本問のような問題も解決できることが求められます。立体は観察力が試されるので、問題を解いているだけではダメで、実際に作つてみると、日常にあるありふれたものを少しじっくり観察する(スケッチすることも大切です)といったことが求められます。例えば角砂糖が少し欠けた様子というのを思い浮かべれば、

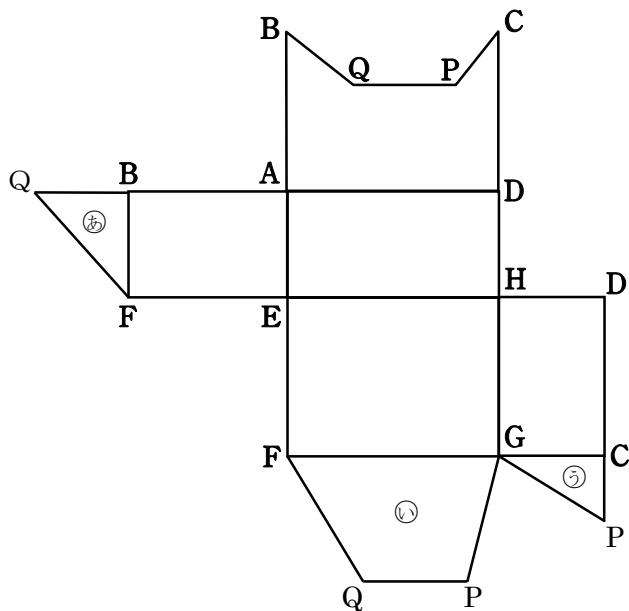
本問の立体のイメージはつかめるでしょう。

解説 (1) 三角形BSQと三角形PRCは、直角が重なるように移動させると、相似であることに気づけます。BS : SQ = PR : RCであるから、2 : SQ = 1.6 : 2。従って、SQ = 2.5 cm です。

(2) まず、上面を完成させます。そして底面EFGHはすべて立体Yに含まれることに注意します。P, Qから底面EFGHに直角になるように直線を引いてしまい、底面EFGHの一部が欠けたような図になっていた解答が目立ちました。すると、P, QはG, Fと結ぶ以外ありえないことがわかります。



あとはこの展開図を描くだけです。



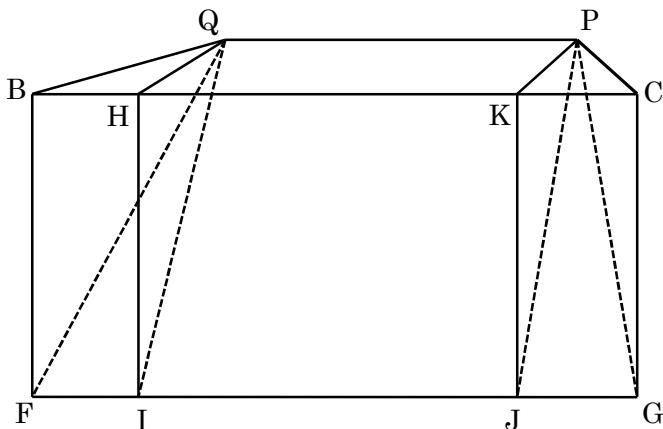
(3) 四角形 PQFG, 四角形 BFGC, 四角形 BCPQ, 三角形 BQF, 三角形 CGP の 5面

(4) 下の図のように立体 X を分割します。

$$(四角すい Q\cdot BFIH) = BH \times BF \times QH \div 3 = 2.5 \times 4 \times 2 \div 3 = \frac{20}{3}$$

$$(四角すい P\cdot CGJK) = CK \times CG \times PK \div 3 = 1.6 \times 4 \times 2 \div 3 = \frac{64}{15}$$

$$(三角柱 PKJ\cdot QHI) = (PK \times KJ \div 2) \times HK = (2 \times 4 \div 2) \times 3.9 = 15.6 \quad \text{加えて, } 26 \frac{8}{15} \text{ cm}^2$$



$$\text{元の立体の体積 } 6 \times 8 \times 4 = 192 \text{ cm}^3 \text{ から引いて, } 165 \frac{7}{15} \text{ cm}^2$$

3 第1回入試第2問(演算と数列)

1以上の整数Aと0以上の整数Bに対して、「1からAまでの和」とBとの和を、記号【A, B】で表すことになります。たとえば、

$$[4, 1] = (1+2+3+4) + 1 = 11$$

となります。同様に、

$$[3, 7] = (1+2+3) + 7 = 13$$

$$[2, 2] = (1+2) + 2 = 5$$

$$[1, 0] = 1+0 = 1$$

となります。このとき、次の問いに答えなさい。

- (1) 【【12, 34】】を求めなさい。
- (2) 【A, B】=2018となるようなBにあてはまる整数のうち、最小のものを求めなさい。
- (3) 1から2018までの整数をそれぞれ【A, B】の形に表します。ただし、それぞれのBは最小となるものを選びます。この2018個のA, Bの組に対して、分数 $\frac{B}{A}$ をそれぞれ作るとき、できた $\frac{B}{A}$ の総和を求めなさい。

講評 本校で毎年出している演算の問題です。最初は問題の内容に馴れるべく地道に計算、徐々に学んだ知識を生かして大きな数でも対応できるかどうかを試す流れになっています。(3)の出来は今一つでした。計算力もしっかりと養ってください。

解答 (1) $[12, 34] = 1+2+\cdots+11+12+34 = (1+12) \times 12 \div 2 + 34 = 112$

$$[112, 56] = 1+2+\cdots+112+56 = (1+112) \times 112 \div 2 + 56 = \boxed{6384}$$

(2) $[\text{A}, \text{B}] = 1+2+\cdots+\text{A}+\text{B} = (1+\text{A}) \times \text{A} \div 2 + \text{B} = 2018$ です。 $(1+\text{A}) \times \text{A} \div 2$ で2018に最も近くなるときを探すと、A=60のとき、1830。A=61のとき、1891。A=62のとき、1953。A=63のとき、2016となる。したがって、Bが最小なのはA=63のときで、B=2

(3) $[1, 0] = 1, [1, 1] = 2, [2, 0] = 3, [2, 1] = 4, [2, 2] = 5, [3, 0] = 6, \dots [63, 0] = 2016, [63, 1] = 2017, [63, 2] = 2018$ となっていきます。

すると、分数 $\frac{B}{A}$ の和は、

$$\frac{0}{1} + \frac{1}{1} + \frac{0}{2} + \frac{1}{2} + \frac{2}{2} + \frac{0}{3} + \frac{1}{3} + \frac{2}{3} + \frac{3}{3} + \cdots + \frac{62}{62} + \frac{0}{63} + \frac{1}{63} + \frac{2}{63} = \frac{2+3+4+\cdots+63}{2} + \frac{3}{63} = \boxed{1007\frac{23}{42}}$$

理科

理科の勉強は、自然の出来事の中で「不思議だな」「何か変だな」「どうしてかな」「これはどうなっているのかな」といった疑問や興味をもつことから始まります。そして疑問を持ったことをそのままにせずに、調べたり人に聞いたりして、自分の頭で考えることは非常に大切です。こうして分かったことは自分の知識になっていき、自分の頭の中でいろいろな知識と知識とが結びついて、最終的に知識は単独のものではなく網の目のように広がっていきます。

自分が得た知識を他の人に伝えることも大切です。いい加減な理解では人に伝わらないのは当たり前ですが、十分に理解していても、いい加減な言葉では伝えようとしても上手く伝わりません。自分の考え方や知っていることを、文章などを通して他の人に正確に伝えようとすると、国語の文章を読む力（文章理解力）と文章を書く力（文章表現力）がとても大切だということに気がつきます。理科だけではなくどの教科でも言えることなのですが、試験問題を解く時も、文章を正確に読み書きできるかどうかが大きなポイントです。入試問題の採点をしていると、問題文がきちんと読めていない答案や、言いたいことはわかるけれど日本語が不自然で意味が通らないという残念な答案を、いくつも目にします。問題を見たときにどう解決していくか。他の人に説明するためにはどうしたらよいか。これらの課題を解決するためには、物事を筋道立てて考えられるかどうかが重要で、筋道を立てて考えるには、文章理解能力と文章表現能力が必要不可欠なのです。

また、理科では物事を理解するとき、わかりやすくするために、図やグラフを書いて考えることがよくあります。その図やグラフが分かりにくいかからといって、公式や問題の答えを暗記しておくなどというのは何の解決にもなりません。いろいろな図やグラフを書いて自分の頭で考える習慣をつけて下さい。簡単な図を書けば理解できたり、イメージがつかめたりするものなのに、その手間を面倒くさがっている人あるいは苦手にしている人が多いはずです。初めから考えやすい図やグラフが書けるわけはありませんが、根気よく繰り返してみて下さい。さじを投げてはいけません。上手くいかなくとも根気よくやっていると、そのうち自分なりのコツが見えてきます。こういう勉強を続けていけば、

自分の頭で考えるくせがつき理解も進んでいきますし、やがて自分の言葉で表現できることができるようになります。とにかく、あきらめないこと。努力に勝る天才なしです。

【今年度の入試問題から】

【4】 次の文章を読んで、あとの（1）～（5）の問い合わせに答えなさい。

自転車に乗る場合、辺りが暗いときにはライトを点灯しなければなりません。自転車に取り付けられたライトの電源には、前輪の回転を利用するものがあります。

図1は、自転車の前輪と小型発電機を表したもので、図1のように、前輪が回ると小型発電機の回転軸も回ります。これによって電圧が発生し、電流が流れ、ライトが点灯するのです。電圧とは、電源がライトなどに電流を流すはたらきのことです。最近の自転車のライトは、①白熱電球ではなくLED電球を使用しているものが多くなりました。白熱電球とLED電球との違いは発光部分にあり、白熱電球の発光部分はフィラメントとよばれていて、金属でできています。これに対して、LED電球の発光部分は②別の特殊な物質でできています。



図1

(1) 下線部①について、エジソンは日本で得られる、ある素材をフィラメントとして使ったことで、長時間使える白熱電球を作りました。その素材を、次の(ア)～(エ)の中から1つ選び、記号で答えなさい。

(ア) 毛糸

(イ) 絹糸

(ウ) 竹

(エ) 和紙

(2) 下線部②について、LED電球に使われている特殊な物質には、温度が上がると電流が流れやすくなる性質があります。この物質を何といいますか。漢字3文字で答えなさい。

(3) 白熱電球と LED 電球に加える電圧を少しづつ大きくしたときに、電流の大きさと電圧の関係を調べると、白熱電球は図 2、LED 電球は図 3 のような結果になりました。このとき、白熱電球は 0 [ボルト] より大きい電圧で発光していました。一方、LED 電球はしばらく発光していませんでしたが、ある電圧を超えるとずっと発光していました。あとの (a) ・ (b) の問い合わせに答えなさい。

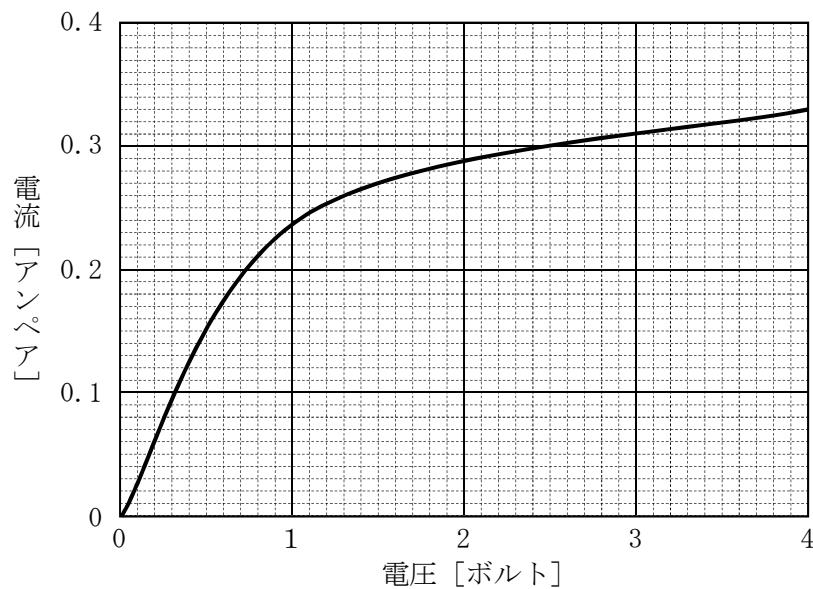


図 2

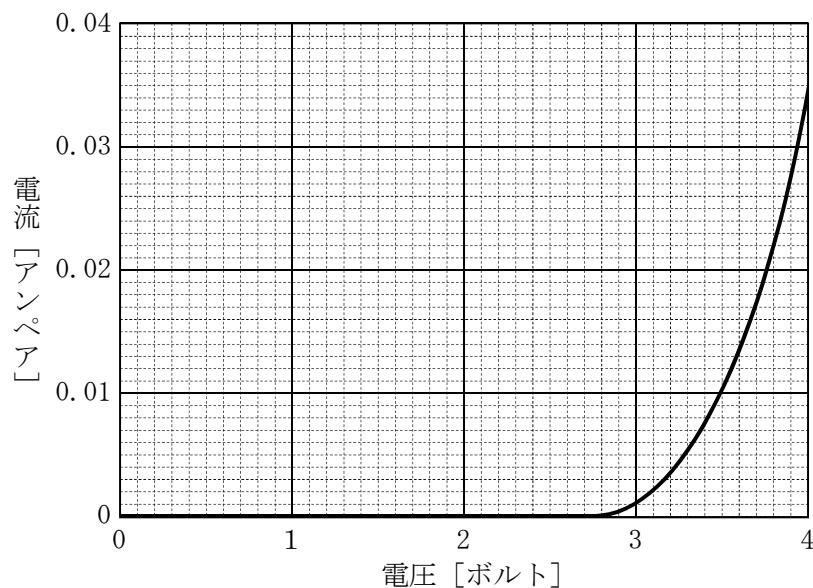


図 3

(a) 図 2 からわかるることを、次の（ア）～（エ）の中から 1 つ選び、記号で答えなさい。

- (ア) 電流が常に電圧に比例している。
- (イ) 電流が電圧に反比例している。
- (ウ) 2 [ボルト] の電圧を加えても、電流は流れない。
- (エ) 電圧を 1 [ボルト] から 2 [ボルト] に増やしたときの電流の増加量よりも、2 [ボルト] から 3 [ボルト] に増やしたときの増加量の方が小さい。

(b) 下線部について、その電圧は何 [ボルト] ですか。グラフから読み取って、小数第 1 位まで答えなさい。ただし、LED 電球は電流が流れるとき発光します。

(4) ライトに(3)のLED電球を用いた自転車を用意し、この自転車の前輪を回転させて、回転軸の1秒間あたりの回転数と、小型発電機がLED電球に加える電圧を調べると、次の表のようになりました。

回転軸の1秒間あたりの回転数〔回転/秒〕	10	20	30	40
LED電球に加わる電圧〔ボルト〕	0.9	1.8	2.7	3.6

また、図4は小型発電機の回転軸と自転車の前輪を表しています。自転車の前輪が回転すると、小型発電機の回転軸がすべることなく連動して回転します。この小型発電機の回転軸の円周は13cmで、自転車の前輪の円周は130cmです。あとの(a)～(d)の問い合わせに答えなさい。

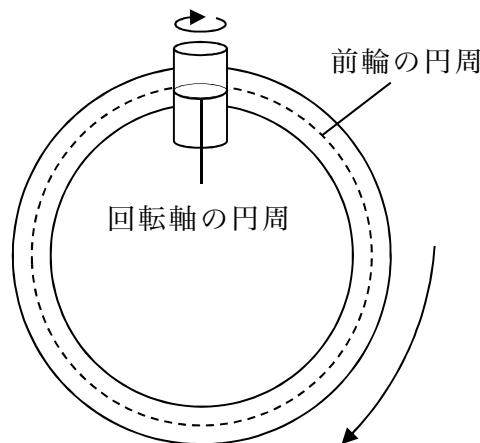


図4

(a) 表からわかることを，次の（ア）～（エ）の中から 1 つ選び，記号で答えなさい。

- (ア) LED 電球に加わる電圧は，回転軸の 1 秒間あたりの回転数に比例する。
- (イ) LED 電球に加わる電圧は，回転軸の 1 秒間あたりの回転数に反比例する。
- (ウ) 回転軸の 1 秒間あたりの回転数が 2 倍になると，LED 電球に加わる電圧は 4 倍になる。
- (エ) 回転軸の 1 秒間あたりの回転数が 2 倍になると，LED 電球に加わる電圧は 0.25 倍になる。

(b) LED 電球が発光し始めるためには，小型発電機の回転軸が 1 秒間あたり何回転すればよいですか。ただし，答えが割り切れない場合は，小数第 2 位を四捨五入して，小数第 1 位まで答えなさい。

(c) 小型発電機の回転軸が 1 秒間あたり 25 回転するとき，自転車の速さは秒速何 m ですか。ただし，自転車の前輪の厚さは考えないものとします。

(d) この自転車を一定の速さで走らせるとき，LED 電球が発光しているのはどの場合ですか。次の（ア）～（オ）の中からすべて選び，記号で答えなさい。

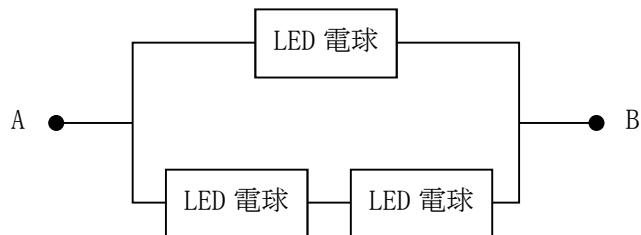
- (ア) 50 m を 10 秒で走らせる場合
- (イ) 150 m を 40 秒で走らせる場合
- (ウ) 2 km を 16 分 20 秒で走らせる場合
- (エ) 5 km を 30 分で走らせる場合
- (オ) 60 km を 3 時間で走らせる場合

(5) (3) の LED 電球を用いていくつかの回路を作りました。すべての LED 電球が点灯する回路はどれですか。次の (ア) ~ (オ) の中からすべて選び、記号で答えなさい。ただし、どの回路でも、点 A と点 B の間にかかる電圧は 3 [ボルト] です。

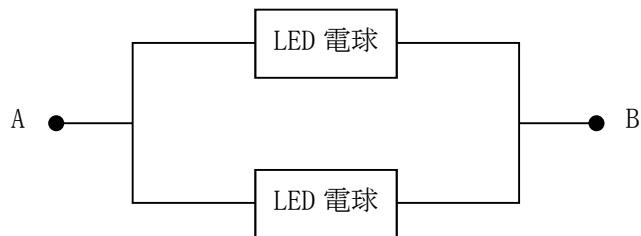
(ア)



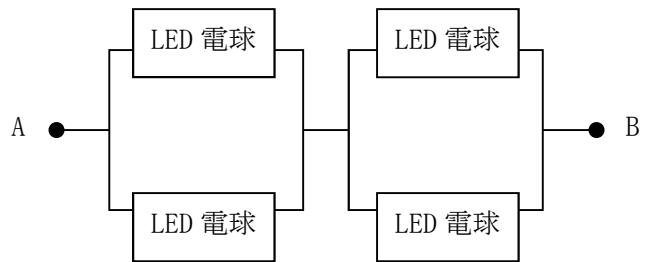
(イ)



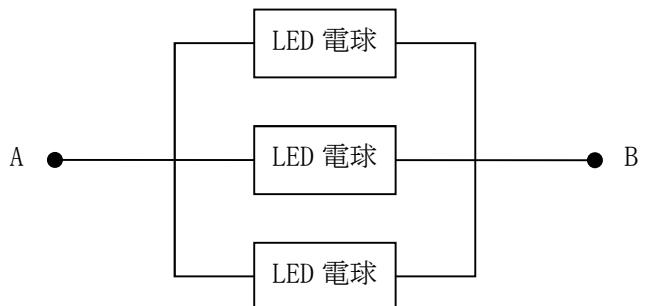
(ウ)



(エ)



(オ)



解答と解説

近年、身の回りの電球が白熱電球からLED電球へ移行されています。このことはニュースや新聞で取り上げられているので言葉として白熱電球やLED電球は知っている人は多いと思います。ですが、その違いは何なのか調べた人は多くはないのではないでしょうか。普段耳にする言葉や身の回りの現象について“そういうものだから”として受け入れてしまうのではなく積極的に調べてもらいたいと思います。また、グラフからわかるなどを読み取る力、読み取ったことが何を表しているのか考える力、読み取ったことを他のことに応用する力を試しました。単に反射的に問題を解くのではなく、ひとつひとつの意味を考えてももらいたいと思い一連の問題を出題しています。

(1) 発明の父であるエジソンの伝記を読んだことがあれば知っているのではないでしょうか。

答 (ウ)

(2) LED電球に使われている温度が上がると電流が流れやすくなる性質をもつ物質は半導体です。

答 半導体

(3) (a) 比例とは片方の数値が2倍、3倍になった時にもう片方の値が2倍、3倍となることで、反比例は片方の数値が2倍、3倍になった時にもう片方の値が $\frac{1}{2}$ 倍、 $\frac{1}{3}$ 倍となることですから、今回のグラフは常に比例ではないし、反比例ではないので適当ではありません。また、2 [ボルト] の電圧を加えたときには電流は0.29 [アンペア] 流れるとグラフから読み取れますから(ウ)も適当ではありません。また、グラフの形をみるとはじめに急激に電流の大きさが増えていることがわかります。その後、2 [ボルト] を過ぎたあたりから曲線は緩やかになり、電流の増加量が少なくなっています。以上のことから、電圧を1 [ボルト] から2 [ボルト] に増やした時の増加量の方が2 [ボルト] から3 [ボルト] に増やした時の方が電流の増加量は小さくなるという(エ)の記述が正答となります。

答 (エ)

(3) (b) ある電圧を超えると発光するというのは、言い換えればある電圧を超えた時に電流が流れることになりますのでグラフの立ち上がりの箇所の電圧を読み取ってください。

答 2.8 [ボルト]

(4) (a) 表を見て読み取る問題です。回転軸の1秒間あたりの回転数が2倍、3倍になるとLED電球に加わる電圧は2倍、3倍になっているので、この2つの数値は比例関係にあります。よって答えは(ア)となります。

答 (ア)

(4) (b) (3)の(b)を用いて答える問題です。このLED電球は電圧が2.8 [ボルト]を超えた時に発光しますので、LED電球に2.8 [ボルト]を加えるのに必要な回転軸の1秒間あたりの回転数を計算すればよいのです。回転軸の1秒間あたりの回転数が10 [回転/秒]のときLED電球に加わる電圧は0.9 [ボルト]ですので、LED電球に加わる電圧を2.8 [ボルト]のときの回転軸の1秒間あたりの回転数は31.1 [回転/秒]となります。

答 31.1 [回転/秒]

(4) (c) 小型発電機の回転軸が1秒間に25回転するということは、自転車が1秒間に回転軸の円周25周分進んでいると読み解くことができます。回転軸の円周は13 [cm]ですから25周分は325 [cm]、すなわち3.25 [m]です。以上のことから自転車の秒速は3.25 [m/秒]ということがわかります。

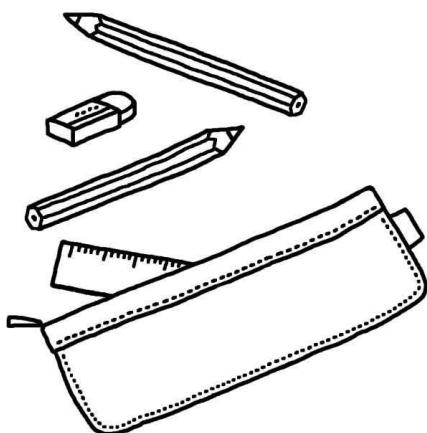
答 3.25 [m/秒]

(4) (d) (4) の (b) を用いて答える問題です。このLED電球は回転軸の1秒間あたりの回転数は31.1 [回転/秒] を超えると発光します。したがって自転車の秒速が4.04 [m/秒] 超えていれば発光しますので各選択肢の条件を秒速に直して数値を比較したときに秒速が4.04 [m/秒] 超えていれば答えとなります。

答 (ア) • (オ)

(5) このLED電球は両端に2.8 [ボルト] の電圧が加われば発光するわけですから、2つ直列になっていると光りません。並列であれば光りますので直列になっていないものを選んで下さい。

答 (ウ) • (オ)



社会

本校の社会科入試では、「考える力」を重視しています。教科書で覚えた様々なことがらをもとにして、その関係を論理的に組み立ててみる。こうした作業は中学入試に限らず、生きていく上でとても大切なことです。とかく社会科は暗記科目と思われがちですが、暗記は「考え、組み立てる作業」の準備段階と思ってください。例えば、ある「改革」の中身を暗記せずに、その改革がどのような影響を及ぼしたのかを判断できますか?「選挙制度」の概要を知らずに、その制度が良いか悪いかを論じられますか?もちろん、ただ「知っている」だけでは、考える力は伸びません。教科書や参考書以外にも多くの本や新聞などを読み、日常生活の中で様々な経験をすることで、色々な考え方があることを知りましょう。そして、お父さんやお母さん、学校の先生など、周りの人々の意見を良く聞き、自分の意見を聞いてもらって論理的に表現する力をみがきましょう。こうして手に入れた知識や能力は、君たちの人生を支えてくれる一生の宝物です。中学入試を一つのきっかけとして、このような宝物を手に入れることができれば、中学入試にかけた多くの時間はきっと意義深いものとなることでしょう。

第1回 第1問（歴史分野）

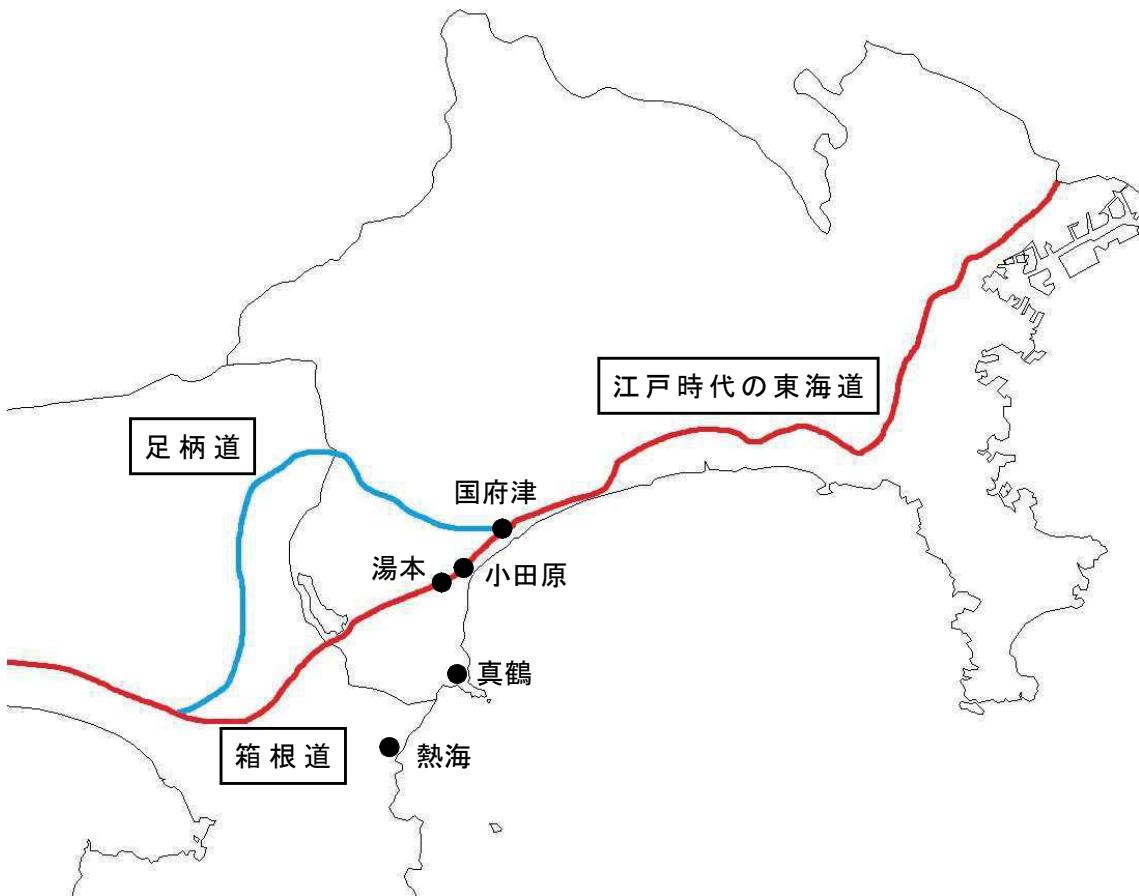
[1] 次の地図と文章に関して、との問い合わせに答えなさい。

関東は、北と西を山に、東と南を海に囲まれています。そのため、陸路で関東の内と外とを行き来するには、山を越えなければいけません。神奈川県西部に位置する箱根は、古くからそうした山越えのルートの1つとなっています。

現在の静岡県東部から神奈川県西部へいたる陸路としては、箱根を東西に横断するルート（このルートを「箱根道」とよぶことにします）と、箱根の外輪山の北側を迂回するルート（こちらは「足柄道」とよぶことにします）があります。江戸時代の東海道は箱根道を通っていますが、古代には、箱根道よりも坂道がゆるやかな足柄道が主なルートとなっていたようで、
①律令時代の東海道は箱根道ではなく足柄道を通っていました。（中略）

源頼朝が平氏打倒の兵をあげた時、箱根権現（現在の箱根神社）は頼朝を支援しました。頼朝は、その恩に感謝して箱根権現を手厚く保護し、しばしば参拝もしています。②鎌倉時代に

は、將軍や有力御家人がたびたび参拝しています。この時に箱根道を利用したため、箱根道の整備がすすみ、しだいに足柄道よりも箱根道の往来がさかんになっていきました。（中略）



さて、箱根は温泉地としても古くから知られており、（中略）江戸時代には湯治場としてさまざまなかえ、さまざまな人が箱根を訪れました。（中略）江戸城の將軍に箱根温泉のお湯が献上されることもありました。（中略）

明治維新後、箱根は温泉地としてさらなる発展をめざすことになります。1885年に箱根温泉に滞在していた⑦福沢諭吉は、箱根を発展させるためには交通の便をよくする必要があると、地元の新聞に投稿しました。この提言を1つのきっかけとして、箱根に新しい道路が通されました。これが現在の国道1号線です。また、1887年に東海道本線の横浜一国府津間が開通すると、翌年には国府津一湯本間で馬車鉄道（のちに電気鉄道となる）が開通しました。こうして東京・横浜から湯本まで鉄道で行けるようになり、箱根は温泉地として、また政治家や財界人の別荘地として、発展していきました。

しかし、箱根温泉は⑨明治時代末から大正時代にかけてたびたび発生した洪水や地震で大きな被害を受け、さらに、そのほかの要因によつても、箱根温泉は大きな危機にさらされることになりました。そこで、箱根温泉の関係者たちは、宣伝・PR活動、鉄道の往復乗車券つきの

お得なクーポンの発行、観光イベントの実施など、集客につとめました。（後略）

問2 下線部①に関連して、律令国家づくりをすすめていった飛鳥時代について述べた文として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 推古天皇の時に、豪族に國家の役人となることを求める十七条憲法が出された。
- イ 大化の改新のあと、天武天皇によって最初の戸籍である庚午年籍こうごねんじゆくがつくられた。
- ウ 中大兄皇子は、壬申の乱で大友皇子を倒したあと、律令国家づくりをすすめた。
- エ 持統天皇は、碁盤ごばんの目のように整然と区画された平城京に都を移した。

問3 下線部②に起こった出来事として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 後白河上皇が鎌倉幕府を倒そうとして承久の乱を起こしたが、やぶれた。
- イ 元軍が2度にわたって日本に攻めてきたが、執権の北条義時はこれを退けた。
- ウ 德政令を求めて、近畿地方の武士や農民たちがしばしば一揆を起こした。
- エ 宋に留学した道元が帰国し、座禅することを重んじる曹洞宗をひろめた。

問6 下線部⑤について、箱根温泉のお湯を最初に献上した時の将軍は、4代家綱いえつなでした。この4代家綱について述べた文として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 2度にわたって大坂城の豊臣秀頼を大軍で攻めて、豊臣氏を滅ぼした。
- イ 幕府財政の立て直しや人材登用をはかるなどの天保の改革を主導した。
- ウ 大名が養子を迎える条件をゆるめ、大名家の取りつぶしを減らした。
- エ 「生まれながらの將軍」として、鎮国や参勤交代などのしくみを整えた。

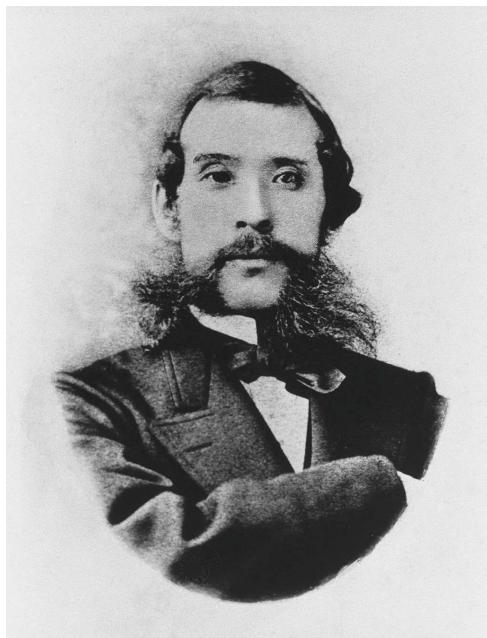
問8 下線部⑦の写真や肖像画として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。



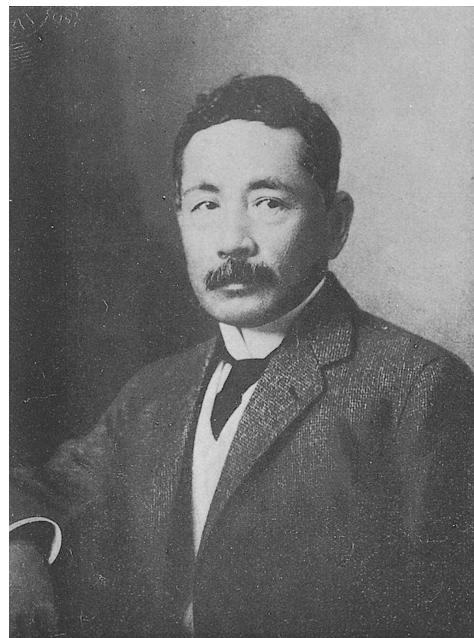
ア



イ



ウ



エ

(画像はいずれも国立国会図書館ウェブサイトによる)

問9 下線部⑧に関連して、明治時代に箱根を訪れた人物に、長州藩出身の政治家、井上馨がいます。この井上馨について述べた文として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自由党の党首となって国会で活躍したが、内閣総理大臣になることはなかった。
- イ 鹿鳴館で不平等条約改正交渉をおこなったが、条約改正は失敗に終わった。
- ウ 北海道の開拓に大きな役割を果たしたが、開拓使官有物扱下げ事件で失脚した。
- エ 外務大臣として下関条約を結んだが、遼東半島は三国干渉で手放すこととなった。

問10 下線部⑨の時期に起こった次の4つの出来事を時期の早い順に並びかえた場合、3番目になるものを、次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 日英同盟を口実として、日本が第一次世界大戦に参戦した。
- イ 韓国が日本に併合され、朝鮮総督府による支配が始まった。
- ウ シベリア出兵が計画された結果、各地で米騒動が起きた。
- エ ポーツマス条約に不満をもつ人々が東京で暴動を起こした。

問13 文中の波線部について、箱根温泉は、天災のほかにどのような要因によって、どのような危機にさらされていたのでしょうか。次の新聞記事も参考にして、1行で説明しなさい。ただし、新聞記事は読みやすくしたり、一部省略したりしています。

箱根は^{まなづる}*例の小田原—真鶴間の鉄道が開通した結果非常に寂れ、その代わりに真鶴から程近き熱海などは、これまで箱根に行ったお客様がこの方面へ向かったので、何時^{いつ}にない繁昌^{はんじょう}を呈している。其の理由は、熱海は設備の点も箱根に劣らぬ上、諸物価が箱根の半分位にしか当らぬので、自然、避寒客が此處^{ひかん}へ集まつたのである。（『都新聞』1923年1月9日）

* 1922年に東海道本線は熱海の手前の真鶴まで開通し、1925年には熱海まで開通した。

《解説》

第1回入試の第1問（歴史分野）では、道や交通という観点から箱根の歴史を取り上げたリード文をもとに出題しました。各設問は、特定の時代に偏らないようにしています。歴史の勉強では、どの時代もきちんと勉強してください。

問2 古代の政治に関する設問で、正解は**ア**です。**イ**の庚午年籍を作ったのは、天武天皇ではなく天智天皇です。**ウ**の壬申の乱で大友皇子を倒したのは、中大兄皇子ではなく大海人皇子です。**エ**の持統天皇が作らせた都は、平城京ではなく藤原京です。平城京に都を移したのは元明天皇です。なお、藤原京も平城京も、碁盤の目のように整然と区画された**じょうばうせい**条坊制の都でした。

問3 鎌倉時代に関する設問で、正解は**エ**です。**ア**の承久の乱を起こしたのは、後白河上皇ではなく後鳥羽上皇です。**イ**の元寇（蒙古襲来）の時の執権は、北条義時ではなく北条時宗です。なお、北条義時は**ア**の承久の乱の時の執権です。**ウ**は、徳政令を求める一揆（徳政一揆）について述べた文としては正しいのですが、徳政一揆は室町時代の出来事で、鎌倉時代の出来事ではありません。

問6 江戸幕府4代将軍徳川家綱についての設問の形となっていますが、家綱について知っている受験生は、ほとんどいないでしょう。名前すら聞いたことがない人も多いと思います。この設問では、家綱に関する知識を問うのが主眼ではありません。**ア～エ**の文を読んで、4つの文のうち3つは家綱以外の将軍について述べた文であることに気づけるかが、この設問のポイントです。**ア**の大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼした時の将軍は2代秀忠で、幕府の実権は初代将軍家康がにぎっていました。いずれも、家綱ではありません。**イ**の天保の改革よりも前に行われた享保の改革が8代将軍吉宗によるものであることを知っていれば、天保の改革が4代家綱の時代ではないことがわかると思います（なお、天保の改革は12代家慶の時の出来事ですが、そこまで知っている必要はありません）。**エ**の「生まれながらの将軍」として鎖国や参勤交代の制度を整えたのは3代家光です。よって、残った**ウ**が正解となります。この問題のように、ぱっと見て「わからない」と思うような問題でも、よく読めばちゃんと解答できるようになっています。一見、知らない問題だと思っても、慌てずに問題をよく読むようにしましょう。

問8 近代の著名人に関する写真・肖像画の問題です。**イ**は伊藤博文、**ウ**は大久保利通、**エ**

は夏目漱石で、**ア**が福沢諭吉です。福沢諭吉の写真としては、1万円札にも採用されている写真が有名ですが、ここではそれよりも若い頃の肖像画を出しました。問6と同様に、消去法で正解にたどり着いてもらえばと思います。

問9 井上馨についての設問で、正解は**イ**です。**ア**の自由党党首として活躍した人物は板垣退助、**ウ**の北海道開拓に尽力した開拓使長官は黒田清隆、**エ**の下関条約を結んだ時の外務大臣は陸奥宗光です。なお、黒田清隆は開拓使官有物払下げ事件によって開拓使長官は辞めますが、その後も明治政府で活躍し、第2代内閣総理大臣として大日本帝国憲法発布の式典で明治天皇から憲法を受け取ってもいます。

問10 近代の出来事を年代順に並び替える設問です。15年弱の間に起きた4つの出来事ですが、いずれも日本の歴史を考える上で大事な出来事ですので、それぞれ何年に起こったか、きちんとおさえておいてほしいと思います。**ア**の第一次世界大戦は1914年に始まり、その年のうちに日本はイギリス側に立って参戦しています。**イ**の韓国併合は1910年、**ウ**の米騒動は1918年の出来事で、米騒動の結果、初の本格的な政党内閣である原敬内閣が成立しました。**エ**のポーツマス条約が結ばれたのは、日露戦争開戦の翌年である1905年のことです。よって、**エ**（1905年）→**イ**（1910年）→**ア**（1914年）→**ウ**（1918年）の順番となり、3番目は**ア**となります。

問13 リード文と新聞記事をもとに答えてもらう記述問題です。新聞記事は、現代の文章とは言い回しや語句などがやや違いますが、ちゃんと読めば内容はつかめると思います。新聞記事からは、鉄道が真鶴まで開通したため箱根のお客が熱海などにとられてしまつたこと、熱海が（温泉地として）設備などが箱根と同等で、物価は箱根の半分くらいであること（熱海の物価が箱根より安いこと）が読み取れます。これらの情報をうまく1行にまとめれば満点です。実際の解答では、鉄道が真鶴まで開通したことを欠くものが多く見られました。しかし、リード文では、交通の発達がその土地の発展と深く関わっていることが何度も取り上げられていますので、鉄道が真鶴まで開通したこと（鉄道が伸びた、交通の便が良くなつた、などでもよいです）にふれていないと、その分の点数は加点されません。聖光学院の社会の入学試験問題は、文章をよく読むことが大切です。

第1回 第2問（地理分野）

大問2では、伊豆半島をテーマにして問題を作成してみました。何気なく観光・レジャーで訪れる人の多い伊豆半島ですが、社会科の視点からみてみると、さまざまなものが見えてくる場所でもあります。問題数の多い大問になりますので、いくつかの問い合わせを取り上げてコメントさせていただきます。

【2】次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

国道135号線は、小田原駅にほど近い交差点から、静岡県下田市まで、伊豆半島の東部につくられた100kmあまりの道路です。東京周辺からの交通の便がよいため、道路はいつも多くの観光客の車でにぎわっています。道路は海岸沿いにつくられています。沿道では①ミカン栽培^{さいばい}がさかんにおこなわれており、ミカンを売る店が数多く見られます。

はるか昔、伊豆半島は南方の海底火山でした。海底火山の活動によって形成された火山島が②プレートの動きによって本州に衝突^{しょうとつ}し、現在の伊豆半島を形成しました。また、富士山や箱根、丹沢山地、（1）湾に突き出した真鶴半島^{まなづる}の形成も、この動きの中での出来事でした。半島の形成後も③火山活動は続き、1989年には伊東市^{おきあい}の沖合^{ふんか}で海底火山の噴火^{ふんか}がありました。

伊豆半島における火山の存在は、単に地形に特徴^{とくちょう}を与えているだけでなく、半島各地に温泉が湧き出すもとになっていますし、火山そのものも観光地となっています。こうした観光地の例が伊東市の④大室山^{おおむろやま}です。大室山では冬になると⑤山焼き^{いなとり}がおこなわれています。

伊東市を抜けると東伊豆町に入ります。東伊豆町にある稻取漁港^{いなとり}は⑥キンメダイ漁がさかんなことでよく知られています。さらに道路を進むと下田市に入ります。下田の市街地に入る手前に玉泉寺^{ぎょくせんじ}という寺があります。この寺は、初代駐日アメリカ領事の（2）が領事館を構えたことで知られています。国道135号線は、下田駅にほど近い交差点で国道136号線に切りかわります。

問1 文中の（1）・（2）にあてはまる語句や人名を答えなさい。ただし、（1）は漢字で答えなさい。

問1はリード文の空欄補充問題です。解答は（ 1 ）が相模（湾）、（ 2 ）がハリスです。（ 2 ）は歴史的な基礎知識ですので、よく出来ていましたが、意外に（ 1 ）の答えを誤っている受験生が多く見られました。特に目立った誤答は駿河湾とするものでした。今一度、東京や神奈川といった足下の地理を見直してほしいと思います。

問2 下線部①について、次の（a）～（c）の問い合わせに答えなさい。

（a）ミカンは、かんきつ類とよばれる種類で、さまざまな品種が栽培されています。かんきつ類について述べた文としてふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア かんきつ類は生食用と酒造用の品種に分かれ、日本では主に水はけのよい扇状地で生産されている。

イ かんきつ類は果実の生食だけでなく、かがみもち鏡餅の上にのせるなど、かざもの飾り物としても用いられる。

ウ かんきつ類の品種の1つである「ふじ」は日本で開発された品種だが、世界で栽培されるミカンの半分はこの品種である。

エ かんきつ類には甘みよりも渋みの勝る品種があるが、干すなどの作業工程を経て甘くすることができる。

（b）次の表はイチゴ・茶・ミカン・ナスの各農産物の生産量上位4都道府県を示したものです。同じカタカナのところには同じ都道府県名が入ります。熊本県と静岡県にあたるものを、表中のア～サの中から1つずつ選び、記号で答えなさい。

	1位	2位	3位	4位
イチゴ	ア	イ	ウ	エ
茶	エ	オ	カ	キ
ミカン	ク	ケ	エ	ウ
ナス	コ	ウ	サ	イ

（平成29年公表 農林水産統計より作成）

(c) 伊豆半島の産業は農業や漁業が中心で、工業はあまりさかんであるとはいえない。

しかし、伊豆半島を含む静岡県全体では工業がさかんです。静岡県の工業について述べた文として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 県西部には世界的に有名な自動車・オートバイや楽器メーカーの工場がある。
- イ 県内には大規模な石灰岩の台地があり、石灰岩を利用したセメント工業がさかんである。
- ウ 県東部には大規模な炭田があり、これを利用した製鉄業が明治以降さかんである。
- エ 県内を東西に横切る東名高速道路はシリコンロードとよばれ、IC工場が集中している。

問2 (a) はミカン（かんきつ類）についての選択肢です。「日当たりがよく温暖な場所で栽培される」といった知識は持っていると思いますが、どのような利用方法をするかというところまでフォロー出来ている受験生は少ないように思えます。正解は(イ)ですが、近年ないがしろにされがちな伝統文化への目配りや、日頃から生活実感として感じられる食べ物へのセンスが問われるところです。

問3 下線部②について、プレートの移動とそれによって引き起こされるプレートのひずみは、
地震の原因の1つとなっていることがよく知られています。これに関連して、日本で発生
した大きな地震について述べた次の文A～Cと、地震につけられた名称の組み合わせと
して正しいものを、あとのア～カの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- A 昼頃に発生した地震で、当時は木造の建築物が多くいたため、揺れによる家屋の倒壊のみならず、火災による被害が大きかった。
- B 朝方に発生した地震で、ビルや高速道路が倒壊した。地震の原因となった断層が地表にあらわれた場所は、震災の遺構として残されている。
- C 午後に発生した地震で、揺れよりも津波の被害が大きかった。津波は人的被害のみならず、発電所などにも大きな被害を与えた。

ア	A : 阪神・淡路大震災	B : 関東大震災	C : 東日本大震災
イ	A : 阪神・淡路大震災	B : 東日本大震災	C : 関東大震災
ウ	A : 東日本大震災	B : 関東大震災	C : 阪神・淡路大震災
エ	A : 東日本大震災	B : 阪神・淡路大震災	C : 関東大震災
オ	A : 関東大震災	B : 阪神・淡路大震災	C : 東日本大震災
カ	A : 関東大震災	B : 東日本大震災	C : 阪神・淡路大震災

問4 下線部③について述べた文として誤っているものを、次の**ア**～**エ**の中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 日本は世界有数の火山国であり、過去の火山活動を研究することによって、火山の噴火を正確に予知できるようになっている。

イ 規模の大きな噴火では火山灰が大量に噴出する。その場合、火山灰が太陽光をさえぎり、気候に影響を与えることがある。

ウ 噴火の影響により、凹地おうちとなったものをカルデラとよぶ。地上にあらわれているものばかりでなく、海中に沈んでいるものもある。

エ 火山の噴火による噴出物などが川をせき止めたり、もとからあった湖を分断したりして、新たな湖が形成されることがある。

問3・4は省略致します。

問5 下線部④について、次の（a）・（b）の問い合わせに答えなさい。

(a) 図Iは大室山を海から撮影した写真です。図IIの地形図を参考にして、写真を写した方向として正しいものを、図IIIの中のP～Tの中から1つ選び、記号で答えなさい。
なお、図II・IIIともに北が上となっています。



図I



図 II

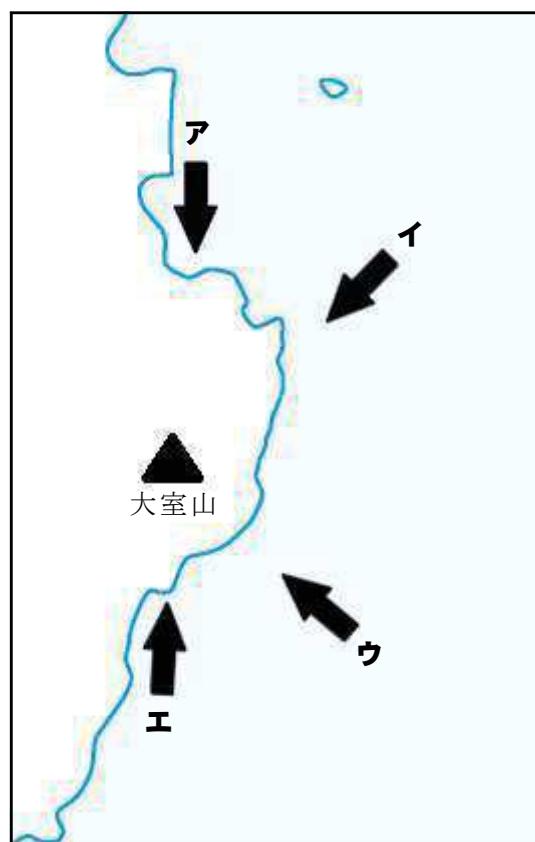


図 III

(b) 次の写真は大室山の山頂付近から東南東にむかって景色を写したものです。写真中央に見える島は行政区画としては東京都に属する島です。この島の説明として正しいものを、あの**ア**～**エ**の中から1つ選び、記号で答えなさい。



ア 1980年代に島内の火山（三原山）が噴火して、全島民が島外に避難するという出来事があった。

イ 江戸時代には金山が開発されて栄えた。また島流しの場所とされており、かつて日蓮が流されていた。

ウ 第二次世界大戦の激戦地の1つであり、現在では自衛隊の基地が置かれ、民間人の立ち入りは制限されている。

エ 世界遺産となった諸島の1つであるが、空港がなく、訪れるためには東京から船で丸1日以上かかる。

問5 (a) は読図問題です。大室山をどの方向から撮影したかという問題ですが、図Iを見ますと、写真の左側が高く、右側が低くなっていることがわかります。また、図IIの大室山を見ますと、地図中では下側（つまり南側）の等高線が高くなっていることがわかります。これを総合して図IIIの選択肢から、正解は（ウ）となります。慌てずに等高線をきちんとみていけば簡単に正解できる問題です。(b)については、地理的な感覚を問いたいと考え出題しました。伊豆半島から、写真にあるようなサイズで目視出来る島が何であるか、ということに対す

る想像力が必要です。必ずしも、伊豆大島と即答出来なくても構いませんし、三原山の噴火という事項を知らなくても構いません。選択肢をみていくと、イは「金山」「日蓮」という単語から、佐渡島とわかります。この大問の大きなテーマは地理分野ですが、歴史的な知識ときちんと組み合わせることが出来なくてはなりません。ウは硫黄島です。伊豆半島から目視出来る範囲が第二次世界大戦の激戦地になったか否かということは歴史的な知識以前の常識であると考えます。同様に、エは小笠原ですが、伊豆半島から目視出来る島へ、丸一日がかりの船旅でしかたどり着けないかどうか、ということも社会常識の範囲といえるでしょう。

問6 下線部⑤について、大室山の山焼きは山の環境を整え、植物の生育を促すためにおこなわれています。この植物に関連して、次の（a）・（b）の問い合わせに答えなさい。

（a）大室山に生えている植物は、かつて主に屋根を葺くために用いられていました。
その植物の総称をカタカナ2字で答えなさい。

（b）次の写真は、この植物で葺かれた屋根の建物が多く残されていることで知られる場所で、世界遺産になっています。富山県にあるこの場所の名称を、あとのア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。



ア 石見銀山

イ 白川郷

ウ 白神山地

エ 五箇山

問6 (b)について、合掌造りの写真をみて、反射的に「白川郷」と思った受験生が多いようでした。問題文には「富山県の」とありますので、白川郷ではなく、五箇山となります。時間が十分にあるわけではない試験中ですが、反射的に思いついた答えを書くのではなく、ひと息立ち止まって考えてみることも必要ですし、問題文をよく読むということも必要です。

問7 下線部⑥について、キンメダイは網ではなく釣りによって漁獲されています。釣りによる漁獲方法をとっているのには、さまざまな理由がありますが、その1つに値段を高くすることができるというものがあります。なぜ釣りによって漁獲すると値段を高くできるのか、その理由として考えられることを15字以内で答えなさい。

問8 文中の波線部の伊東市について、静岡県伊東市の農業に関連した統計を次に示しました。伊東市の統計と、本文の記述から読み取れる、伊豆半島の地形と農業の特徴を、「火山」という言葉を必ず使用して、30字～45字で答えなさい。

伊東市の * 耕地面積率 : 3.4% (静岡県全体では 8.6%)

伊東市の ** 水田面積率 : 5.5% (静岡県全体では33.5%)

* 耕地面積率 : 耕地面積 ÷ 総土地面積

** 水田面積率 : 水田面積 ÷ 耕地面積

(農林水産省ウェブサイトによる)

問8は資料読み取り問題です。ここまで問い合わせやリード文の中で、伊豆半島の地形が山がちであることはすでに想像がつくと思います。さらに資料を見ていくと、そもそも耕地面積率が静岡県の平均値よりも低く、また水田率も静岡県の平均値よりはるかに低くなっています。この問題では、いくつかの答えを想定することが出来ます。1つはそもそも耕地面積率の低さに目をつけ、農業そのものが盛んではないと考えるやりかた、もう1つは水田率の低さに目をつけ、水田耕作は盛んではなく、果樹栽培などが中心であると考えるやりかたです。解答と

しては、問題文において要求されている、「火山」という語を入れ、「火山の影響で山がちである」→「ゆえに（農業が盛んではない）もしくは（水田耕作が盛んではない）」という論旨で答えてもらえばよい問題でした。

社会科はしばしば覚えた知識を引き出すだけの問題と考えられがちですが、それ以上に大切なことは、教科書などで覚えた知識が自分の身の回りのことにつながっているかを考えることです。スーパーマーケットに行き、食品の生産地をみることも社会科ですし、ひいては旅番組や料理番組のようなテレビ番組も社会科の一端と言ってよいでしょう（もちろん、テレビばかりみていて、勉強しないのはいけませんが）。蓄えた知識を活きた知識にするため、机に向き合うだけではなく、様々な方向にアンテナを伸ばしてもらいたいと思っております。



第1回 第3問（公民分野）

大問〔3〕は公民分野の出題です。公民は小学生にとって取っつきにくい題材ですが、まさに私たちが生きる現代社会そのものを扱うのが公民分野ですから、その重要性は議論を待ちません。ただ小学校や塾でも扱う時間は当然相対的に少なく、本問も難しいと感じた受験生が多かったかもしれません。私たちも、可能であれば「考えることで解ける」問題を意識して作問しますが、試験というものが持つ性質上、知識差によって左右される問題も出題せざるを得ません。例年申し述べていることではありますが、知識を身につけるだけではなく、それを血肉と換え、日々の生活の中に落とし込み、知恵や生きる力とすることが出来るようになってほしい・・・というのが私たち社会科教員の願いです。前置きが長くなってしまいましたが、いくつか実際に問題を見てみたいと思います。

問1 (b) 「文化的な生活」を国民が送ることができるようにするために設けられている制度として最もふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 累進課税制度 イ 義務教育制度 ウ 国家戦略特区制度 エ 地方自治制度

この問題の解答はイの「義務教育制度」です。教育を受ける権利は、憲法26条に基づく社会権の1つです。この社会権にかかる塾での授業を記憶していれば、直ちに解答できる問題でもあります。それを知らないでも他の3つの制度との違いをよく考え、例えば、学校に通い、文字や言葉、計算を教わるからこそ、みなさんは好きな本も読め、電車に乗り、お店で様々なものを購入できるのであって、まさしく文化的な生活に教育はなくてはならないものだ・・・と認識することで解答出来るのではないか、と考えての出題です。

問3 (a) 生活水準を示す指標の1つに「エンゲル係数」というものがあります。この指標は、「自由に使えるお金のうち A に使われている割合」ことで、この値が高ければ高いほど生活が苦しいと、一般的には考えられています。なお2016年、わが国の2人以上の世帯におけるこの値は25.8%で、これは1987年以来の高水準となっています。この A に入る語句を漢字で答えなさい。

この問題の解答は「飲食費」（ないしはそれに準ずる言葉はもちろん正解）です。「エンゲルの法則」や「エンゲル係数」を知る小学生は少ないと思いますが、「値が高ければ高いほど生活が苦しい」やこの値が2016年に「25.8%」である、等の記述から、解答が「生活必需品」の中でも特に「飲食費」であることを導き出せたら素晴らしい、との思いで出題しました。

(b) 高度経済成長期から昭和の終わり頃まで、わが国には、社会の格差が少なく、国民生活が豊かであることを表現する「一億総 B 社会」という言葉がありました。この B にあてはまる語句を、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 活躍 イ 戒悔 ウ 中流 エ メディア

この問題の解答はウの「中流」です。深刻化する格差社会の進展に伴い、「一億総中流社会」は過去のものとなりつつあります。大人にとっては当たり前の言葉でも、子どもたちが、その言葉を知らないくなっていること、それ自体がまさしく格差社会の現状を表していると言えるのでしょうか。

(c) 貧困や格差の問題に対処していくために、東京都大田区では、2016年に『おおた 子どもの生活応援プラン』というものを策定しました。このプランの中では、子どもに関わる次のような14の指標が提示されています。

1. 海水浴に行く
2. 博物館・科学館・美術館などに行く
3. キャンプやバーベキューに行く
4. スポーツ観戦や劇場に行く
5. 毎月お小遣いを渡す
6. 毎年新しい洋服・靴を買う
7. 習い事（音楽・スポーツ・習字等）に通わせる
8. 学習塾に通わせる
9. 1年に1回程度家族旅行に行く
10. クリスマスのプレゼントをあげる
11. 正月のお年玉をあげる
12. 子どもの年齢に合った本がある
13. 子ども用のスポーツ用品・おもちゃがある
14. 子どもが自宅で宿題をすることができる場所がある

これらの指標のうち、経済的な理由で実現できない項目が3つ以上有ると、大田区ではどのような対応をするのでしょうか。その対応としてふさわしいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 家庭生活にゆとりがあるととらえ、その世帯を支援対象とする。
イ 家庭生活が困難であるととらえ、その世帯を支援対象とする。
ウ 家庭生活にゆとりがあるととらえ、その世帯を支援対象から外す。
エ 家庭生活が困難であるととらえ、その世帯を支援対象から外す。

この問題を見た瞬間に、多くの受験生は「いったい何を聞かれるのだろう？」と不安に思ったに違いありません。ところが読み進めると案に外して設問はシンプルで、確実に本文および選択肢を読み込めば解答は問題なくイであると判断できるでしょう。入試問題としての適切性・・・という観点からご批判もあるかと思いますが、2つの事柄を意識しつつ出題をしました。1つ目はもちろん冒頭の前書きにも書きましたが、「考えれば分かる」問題を出題したいという思いです。そして、もう1つは、中学受験をしている多くの家庭では、ここに列記された14の項目は、どれも普通のことである可能性が高いと思います。もちろん問題を解きながら何かを感じることは出来ないと思いますが、試験が終わった後、ふと問題を取り出してみて、この14項目を見つめ直し、何かを考えてくれる人が一人でもいれば・・・という思いがこもっていることも申し述べさせて頂ければと思います。

第1回 第4問（常識分野）

日々中学入試に向けて努力を重ねている小学生の皆さんの中には、いま目の前にある参考書の内容が、皆さんの生活にどのように役立つか分からず、ただ入試のためだけに頭に詰め込んでいる人も多いのではないでしょうか。聖光学院中学校の入試問題には、「常識分野」と呼ばれる出題分野が設定されています。これは、社会科学習の目標とされている「社会についての理解」「公民的資質の基礎」を身に付けるためには、身の回りの出来事を常に意識し、どのような「常識的な出来事」に対しても、常に「なぜそのようになっているのか？」と疑問を持つことが必要であるという方針の現れなのです。2018年度第1回入試では、お金という身近なテーマを題材にしてみました。

今年度の中学入試問題（社会：常識分野）は次のように始まります。

【4】次の文章を読んで、あとの問い合わせに答えなさい。

小学6年生の光一君は、今年も両親や親戚こういきからお年玉しんせきをもらいました。お年玉がもらえるお正月は、光一君にとって、一度にたくさん現金を手にできる数少ない機会であり、①お金について考えるのによい機会もあります。

最近は電子マネーで決済することも多くなり、②現金を持たなくても買い物をしたり交通機関を利用したりすることができるようになりました。また、③仮想通貨などという言葉も耳にするようになりました。近い将来、小学生が④硬貨や紙幣を持ち歩く機会が減ることも考えられます。

お母さんからもらった100円玉を握りしめてジュースやお菓子を買いに行ったのも、今は昔のこと。最近は電子マネーやプリペイドカードなどで支払いをする機会も増えてきましたし、中学生でも利用できるプリペイド式のクレジットカードなども現れてきました。また、1989年に消費税が導入されて以来、100円のものは103円になり、100円のお菓子を買うにも100円玉一つでは不足するようになりました。やがて税率が3%から5%、8%へと上昇するに伴い、100円のお菓子を買うのにも105円～108円をお財布に入れて行かなければな

らなくなりました。内税といって、最初から税額が販売価格に含まれているようなものは、払うべき代金も分かり安いのですが、外税といって本体価格のみが表示されており、購入時に税率に応じた消費税を別に支払う場合には、自分で税込みの支払額を考えておかなければ予算も立てられません。また、購入代金の総額に対する税額に1円未満の端数が出るような場合には、個々の品物にかかってくる税額を合計したものと、実際に支払う税額がずれたり…。

問4 下線部②について、封書^{ふうしょ}の郵送料は3%の消費税が導入された1989年には60円から62円に値上げされました。消費税が5%から8%となった2014年には、それまで80円だった封書の郵送料はいくらになったでしょうか。新しい料金として正しいものを、次のア～エの中から1つ選び、記号で答えなさい。

ア 80円

イ 82円

ウ 84円

エ 86円

封書の郵送料が60円から62円に値上げされたのは、消費税が導入された1989年のこと。後に郵便事業の収支が悪化したことに伴い、94年に郵送料は80円に値上げされました。しかしその後は、消費税が5%になった際にも郵便事業が比較的安定していたため、「消費税5%はすでに織り込み済み」として郵便料金の値上げはされませんでした。よって、80円の郵便料金には事実上、5%の消費税がすでに含まれていると考えられます。ですから、消費税が5%から8%に値上げされた時に上乗せされた税率は3%であり、税額にして2円弱。よって80円の郵送料は82円になったのです。でも、（郵便局で購入した場合）切手代には消費税はかかりません。消費税は郵便料金の支払いに切手を使う時に「郵送料金」に対して課されるものなのです。（こうした課税方法は切手代に限らず、図書券などの金券にもあてはまります。）以上のように、この問題はただ単に「現在の封書の郵送料を知っていますか」という知識を問うものではなく、切手代と郵送料の違い、消費税がどの段階で課税されるかなど、様々なことを考えて欲しいと思って作った問題です。

問 7 下線部⑦について、お金の貯め方について光一君は次のように考えました。このことに関する、あの（a）・（b）の問い合わせに答えなさい。

(問題文一部省略)

(a) 光一君の考える日本銀行の役割には、実際にはおこなわれていない、もしくは現状ではおこなうことができない内容が含まれています。その内容を、次のア～ウの中から1つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本銀行が紙幣を発行すること。
- イ 日本銀行に個人が口座をつくること。
- ウ 日本銀行が超低金利政策を実施すること。

小学生でも日銀が発券銀行であることは、紙幣に「日本銀行券」と書いてあることからも知っていると思います。しかし、「個人が口座を作ること」ができるかどうか、「超低金利政策を実施すること」ができるかどうか、そんなことは小学校では教わらないかも知れません。まず「超低金利政策」は時事問題として選択肢にいれました。安倍首相の下で日銀の黒田総裁が「超低金利政策によるデフレ脱却」を図っていることは、日々の新聞記事からよく見知っているはずです。安倍政権も5年を超えたから、超低金利政策も目新しいものではなくなりました。しかし、銀行預金にほとんど利子がつかない状況がどのような政策に基づくものか、銀行にお年玉を預けている小学生にも良く考えて欲しい身近な問題です。（なお、日銀が「銀行の銀行」とか「政府の銀行」と呼ばれ、銀行が日銀に預金口座を設けたり、政府が預金口座を通じて国民が納めた税金の管理をしていることも、中学校に入ればきちんと学ぶことになります。）ここではアの「発券銀行」と、ウの「超低金利政策」を日銀の役割として理解できていれば、消去法でイが誤った選択肢として選べるでしょう。

君たち小学生が、社会科という教科を通していま学んでいることは、社会の動きを理解し、自分の生活環境をより良いものにするために必要不可欠のことばかりです。時事問題の学習とは新聞やテレビのニュースを暗記することではありません。時事問題を通して、教科書の内容を深く理解することが重要です。時事問題の理解には地理や公民の知識が必要です。時事問題の背景を探るには歴史の知識が必要です。何にでも関心をもち、広く知識を蓄えること。それが、中学入試を成功させる秘訣です。

英語

1. 出題のねらい

帰国入試における英語の試験のねらいは、英語の断片的知識の有無を問うことではなく、英語圏で生活したことのある受験生が現地で体得するような、英語を実践的に運用する能力、英語を使って論理的に思考する能力を測ることにあります。とはいっても、話し言葉の域を出ないインフォーマルな英語では十分とは言えません。細かな文法事項などの形式よりも内容が重視されることに変わりはありませんが、友達同士英語で会話をしたり子ども向けの物語を読んだりするだけで満足することなく、日頃から小学生でも理解できる内容の書物、雑誌、ウェブサイト、新聞、ニュースなど、よりフォーマルな英語にも触れ、論理的に意見を組み立てる練習をすることで幼児英語からのステップアップを図りましょう。行き過ぎた傾向分析から特定の形式のみの偏った学習をすることは禁物です。選り好みをせず、多種多様な内容や文体の英語にたくさん触れて、バランスのよい言語体験を心がけましょう。

2. 出題傾向と対策

最新の問題を例に、出題の傾向と対策を大問ごとに見ていきたいと思います。

試験時間は60分、配点は100点です。

〔I〕 対話内でジョークの決め手となる語を問う問題

大問〔I〕は、対話中の空所に入れるのに適切な語を前後の流れから考えて選ぶ問題で、やりとり全体の主旨とジョークのオチをつかみ、手がかりをもとに文章を完成させる形式です。苦戦した受験生が多かったようですが、英語圏でも knock-knock jokes と呼ばれる駄洒落を使ったジョークや riddles と呼ばれるなぞなぞの類いは小学生にも馴染みのあるものだと思います。自分が興味のあることを発信するだけでなく、他者が何を狙いとして発言しているかを察することもコミュニケーションにおいてはとても大切なポイントですから、一方的に意見を述べたり事務的なやりとりをしたりするだけでなく、双方向の会話力と柔軟な思考力を身に付けるよう心掛けましょう。映画やドラマ、スピーチなどを見ながら発話内の言葉を味わうのもよい練習になるかも知れません。

〔II〕 同じ綴りの単語の使い分けを問う問題

大問〔II〕は、綴りが同じでも色々な意味で使われる単語について、2つの文脈に共通する語が何であるかを書く問題で、単語の意味の広がりを捉えているか、品詞や語源、発音が違っても同じ綴りになり得る組み合わせの正確な知識があるかが問われます。英語圏の子どもがパズルや言葉遊びなどを通じて綴りと意味の関係を身に付けていくように、普段から綴りを意識した単語の覚え方をしていなければ解ける問題です。満点や高得点の受験生が多い一方で、発音は分かっていても綴りはうろ覚えなのか、あるいは意味の上で適切な語がなかなか思いつかなかったのか、苦戦した受験生も少なからず見られました。英語を使い慣れていても、文脈に基づいた単語の意味の判断をする力がなければ誤読につながります。中学生になるにあたっては、いわゆる多義語や同綴異義語も正しく習得しておきたいものです。

[III] 文法・語法の知識を問う問題

大問〔III〕は前年度に引き続きオーソドックスな文法問題です。帰国生であっても、文法や語法を軽視するといつまでも小学生レベルの話し言葉から抜け出せずに行き詰ってしまいます。加えて、明らかに語句の使い方の間違った箇所を含む文章を見て何が不自然か分からないのであれば、英語の感覚にも改善の余地があると言えるでしょう。苦戦している様子の受験生も見受けられた一方で、他の大問において比較的高得点の受験生はこの問題形式でもしっかりと正解しており、英語そのものができれば文法・語法も感覚的に身に付いている、という印象です。英語圏の小学校においても Language Arts の授業で文法・語法を学ぶはずですし、アカデミックな読み書きにつながる文法・語法の習得は、帰国生にとっても重要です。公式の丸暗記や理屈のみの理解は本質的ではありませんので、読み書きを重ね自然かつ正確な運用に磨きをかけましょう。

[IV] 語句の定義をヒントに語彙力を問う問題

大問〔IV〕は語句の定義を説明した文を読んで該当するキーワードを書く問題で、他の大間に比べ、受験生全体の正答率が意外に低かった問題でもあります。和訳をすることなく語彙を習得することは英単語の学習において大事なことであり、英語圏の小学校でも本問と同様のドリルを通じて語彙の定着を促す教授法が取り入れられています。難しい語句に出会った時は、辞書（英英辞典）を引いたりインターネットで検索したりすることで、どのような言葉を使ってどのように説明されているかを探求することができますし、逆にある言葉をどのように説明すればよいかを考えるのも、学校の授業で show and tell と呼ばれる研究発表などを通じて培われているはずです。話し言葉に出てくる語句だけを自己流に使うだけで満足せず、積極的に語彙を増やす取り組みをしましょう。子供から大人まで、誰でも楽しみながら語彙力を磨くことのできるクロスワードパズルなども学習に役立ちます。

[V] 読解問題（説明文）

大問〔V〕は、あるスポーツ選手についての伝記的な文章に関する読解問題です。かなりの長さではありますが、小学生でも読める分かりやすい文章であり、設問も内容を順に確認していくべき解ける平易なものです。問題形式としては、文脈から単語の意味を推測する問題、要点の具体的な内容を問う問題、本文の内容に基づいて文の一部を補う問題です。後回しにして時間が足りなかった様子の受験生を除いては、全体的に正答率の高い問題でした。文章が長くても集中力が続かないということがないよう、日頃から多読を実践し長文に慣れておきましょう。今回は伝記スタイルの説明文が出題されていますが、ある特定の分野・文体に偏った学習を推奨しているわけではありません。どんな説明文でも短時間で論旨と論理をきちんと意識して読める読解力を養いましょう。

[VI] 読解問題（物語文）

大問〔VI〕は、民話的な物語に関する読解問題です。児童小説ではないものの決して難しい文章ではありませんが、こちらもかなりの長さであり、時間切れだったのか、物語を精読することに慣れていないからか、大問〔V〕の説明文と比べると正答率の低い問題でした。問題形式としては、文脈から考えて適切な語を補う問題、前後関係からフレーズの意味を推測する問題、話の大筋に関わる部分について説明する問題、前後から行間を読み取る問題です。小説が題材になっていることもあります、直接書かれていなことを文脈から導き出す力や話の流れに応じて柔軟に解釈する力が求められる問題が中心であり、大問〔V〕のように論理をつかめば理路整然と解答にたどり着ける、というわけにはいきません。反対に、指示のない限り、本文を逸脱した全く根拠のない想像をしては、読解ではなく主観的鑑賞になってしまいます。時間の制約がある中でも問題ごとに何が問われているのかを考え、適切に答えるよう心がけましょう。

[VII] 英作文問題

以前とは異なる環境に身を置いた経験について説明した上で、その経験が自分の考え方には及ぼした影響を、詳細に言及しながら論じる問題です。受験生本人の経験をそのまま書ける問題だったこともあり、明らかに時間をかけていない答案を除いては高得点の作文が多数見られました。主張を合理的に説明できるかどうかが主な課題です。分かりやすいことが何よりも大切であり、難解な語句や複雑な文章構造は一切必要ありません。小さな字でぎっしりと書き込まれた答案もありましたが、長ければ長いほど良いということではなく、言いたいことのある程度の分量で論理的にまとめる構成力も評価の対象となります。この問題については、以下に解答例（それぞれ実際の複数の答案から部分部分を繋ぎ合わせた上で加筆しサンプル用に再編集したものですが、使用されている語彙や文法のレベルはなるべく忠実に再現しております）をいくつか挙げたいと思います。

[VII] Think about when you were in a new environment (class, school, country, etc.), and write an essay to show what it was like. How did the experience influence the way you think? Be sure to include details to show what this experience means to you.

解答例①

・ I lived in the USA for a few years. The culture, the environment, and the way people think were completely different there. My experience in the States has changed the way I think in a very positive way. In Japan, most people hide their true feelings because sometimes it may be considered rude if you don't. I was one of them when I entered an American school. Some of my classmates came to talk to me, but I was so shy and scared I almost ignored them at first. Then, one of them kindly asked me what the problem was. He was also a student from abroad and told me that he totally understood what I was going through. He even encouraged me to express myself loud and clear because nobody would bite me. Actually, many people in the States were friendly and listened to me with smiles on their faces no matter what I said. I learned that honesty is the best policy and it gave me the guts to share my feelings as they were. This was a once in a life time important experience to me.

これが合格者の平均的作文です。さらに難しい語句や文法を駆使した答案もありましたが、読み手にとって理解しやすい言葉遣いであれば全く問題ありません。多くの受験生が書く英文には若干の話し言葉が含まれているものの、合格レベルの答案には幼稚でブロークンな口語は見られず、概ね小学生の書き言葉として十分丁寧な文体になっています。また、問題の指示を正しく理解し、具体的に自分の考えが説明できています。

解答例②

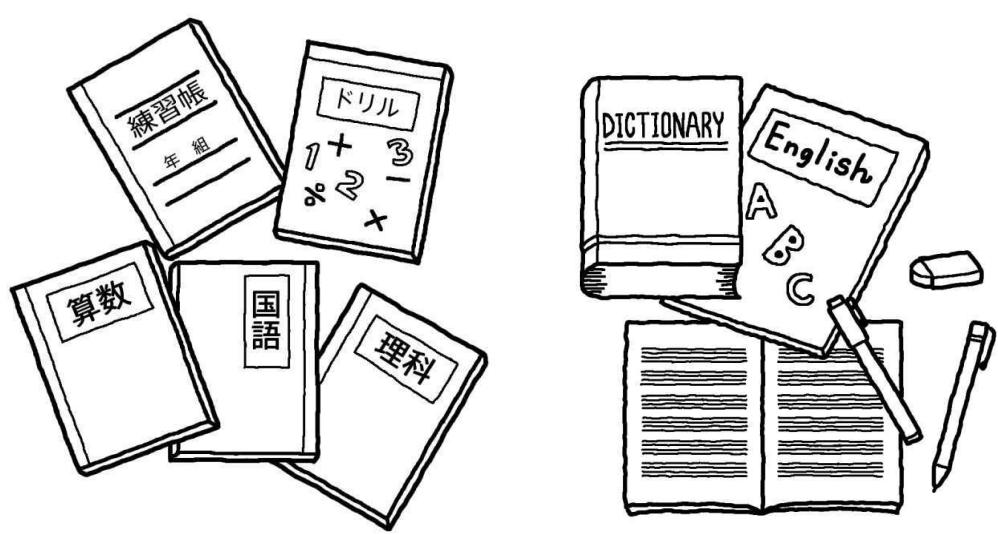
・ I think the time I spent in a new environment was fun. I went to England when I was in the third grade. My English was not good, so I had trouble making new friends. I was surprised that there were a lot of people from different countries. It took me a while, but gradually I was able to open up and communicate with gestures. My classmates were very kind and they became my first friends outside of my hometown. This experience taught me that you don't have to be good at the language to make friends. My best friend was Tom. He was really a unique boy. He was independent and sure of himself. We argued a lot because he was often stubborn. Even when many people agreed with me, he wasn't afraid of telling me I was wrong, or his ideas were better. He told me that I had to be more aggressive in things. We had a lot of fun together and I learned many lessons from him. Moving to England was a really good experience and I will never forget about the good times I had there.

これが受験生の平均的作文です。全体として箇条書きに近く、所々に表現の拙さや論理的繋がりの悪さが見られ、文章としてのまとまりに欠けている印象があります。しかしながら、英語そのものに大きな破綻はなく、一応題意を満たしている内容になっています。

今回は身近なテーマであったため、実際に体験したことと実際に感じたことをそのまま書いた受験生が多くのことと思います。たとえあまり特徴的な経験がなかったとしても、意見をはつきりさせたいからといって実際には考えてもいよいよ極論を述べる必要はありません。題意を正確に理解し、自分の考えを素直に述べた上で、パラグラフ・ライティングの核となる主張とそれを支える論拠を明瞭に書ければ十分です。テクニックに走って策に溺れることのないようくれぐれも気を付けましょう。また、あまりにも口語寄りの表現ばかりが使われている答案や、文法や綴りの間違いが多い答案も見られました。内容重視とはいえ、表現の適切さも採点対象となります。友達と会話する時のような言葉遣いで書くのではなく、作文に相応しい文体を使い分けられるよう、手本となる説明文や意見文に数多く触れておきましょう。

[総評]

60分与えられているとはいっても、時間内に解くのは厳しかったと感じた受験生もたくさんいたことでしょう。英語を選択するほとんどの受験生は、英語を英語のまま理解していると思いますので、それに加えて英語圏で中学生が読み書きするような、より質の高い英語を身に付けるべく少しずつ意識していきましょう。自分は話せる、聞けるという自信から読み書きの力や語彙、文法、教養を磨かないと宝の持ち腐れになってしまいます。英語圏からの帰国生にとって、最終目標は旅行や生活に困らないレベルの英語ではないはずです。好き嫌いなく色々な内容、文体、難易度の英語にできるだけ多く触れ、自分の英語の幅を広げましょう。また、解答に際しては、大問ごとに求められる読み方をつかみ、どの問題にどのくらい時間をかけるべきかの判断を間違えないことも対策のカギとなるでしょう。



※表紙のイラストは、高校2年（57期生）小松蓮君の作品です。

